

図書館 雑誌

The
Library
Journal

2023 2 Vol.117
No.2

●編集委員会

〈委員長〉

松本哲郎（市原市立中央図書館）

〈委員〉

青柳英治（明治大学文学部）

岩永知子（相模原市立図書館）

小野 亘（東京大学駒場図書館）

小竹穀郎（国立国会図書館）

中村保彦（元文教大学図書館）

長谷川優子（元埼玉県立図書館）

間部 豊（帝京平成大学人文社会学部）

宮原柔太郎（日本体育大学図書館）

米山 薫（多摩市立図書館）

*

●事務局スタッフ

秦 秀文・川下美佐子・星川智隆

●今月の表紙

東京学芸大学附属図書館所蔵

「新板鼠の戯」

国利筆

（明治17（1884）年）

〈東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ〉



VOL.117 NO.2 CONTENTS

窓●内部質保証 ————— 村上健治 64

こらむ図書館の自由●

資料は、後世に伝えようとする、人びとの意思によって残る—少年事件

記録の廃棄問題報道から思うこと ————— 西河内靖泰 67

●NEWS ————— 65

告知板 … 66／新聞切抜帳 … 69

●新館紹介 ————— 71

*

*

*

〔特集〕

トピックスで追う図書館とその周辺

創造的な学びとコミュニティが生まれる空間—県立長野図書館

「モノコトベース」の取り組み ————— 横山紗央里 72

鳥取県ライトハウス点字図書館における読書バリアフリーの取り組み

————— 酒井詩織 74

静岡県立中央図書館における自治体資料自動収集システムの開発と今後の

可能性 ————— 杉本啓輔 77

山陽小野田市における「マタニティ・ブックスタート事業」の取り組み

————— 山本安彦 80

新聞博物館と学校図書館をつなぐ学習キット—デジタル時代に共通の

言論空間つくる社会教育施設の役割 ————— 尾高 泉 82

高崎商科大学図書館における「good title books@TUC 図書館」の取り組み

について ————— 高橋美樹子 84

*

*

*

漆原宏さんを偲んで●

漆原宏宅で図書館写真パネルに囲まれて考えたこと ————— 松島 茂 92

漆原宏さん 追悼 ————— 庄野昭子 94

漆原宏の膨大な図書館写真資料について！ ————— 漆原美智子 96

非正規雇用職員セミナー「社会教育施設で働く非正規雇用職員」報告

————— 永見弘美 100

霞が関だより ●第231回

文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案 ― 文部科学省 88

ウチの図書館お宝紹介! ●第228回/名城大学附属図書館

加藤平左エ門文庫について ― 難波輝吉 98

図書館員のおすすめ本 ●㊹

徳政令 中世の法と慣習 ― 小林沙織 102

化石の復元、承ります。 ― 藤本昌一 102

歌うま本 ― 横山道子 103

古都鎌倉で30年間続いた! 伝説のビデオレンタル店から学ぶ遠隔経営術
― 高田高史 103

図書館員の本棚 ●

調べ物に役立つ図書館のデータベース ― 椎名拓朗 97

* * *

● *The Library Journal, January 2023*

Special feature: Current topics affecting libraries and their environs

Creative learning and community space – Monokoto Base at Nagano Prefectural Library (YOKOYAMA Saori) 72*Reading for people with print disabilities at the Tottori Lighthouse Braille Library* (SAKAI Shiori) 74*The development and future potential of a system for automated acquisition of municipal publications at the Shizuoka Prefectural Central Library* (SUGIMOTO Keisuke) 77*The Maternity Bookstart Project in Sanyo Onoda City* (YAMAMOTO Yasuhiko) 80*A learning kit about Newspark (Japan Newspaper Museum) for school libraries – Spaces for common discourse and the role of social education facilities in the digital age* (ODAKA Izumi) 82*The good title books@TUC Library initiative at the Takasaki University of Commerce Library* (TAKAHASHI Mikiko) 84

● 日図協図書館新着案内 ― 104

● 協会通信 ― 111

常任理事会 111

事務局カレンダー 115

● 編集手帳 ― 116

*「小規模図書館奮戦記」「れふあれんす
三題漸」は休載させていただきました。

● 図書館雑誌 3月号予告 ― 116

● 発行者

公益社団法人日本図書館協会©2023

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電 話 (03)3523-0811 〈代表〉

直 通 (03)3523-0816 〈編集部〉

FAX (03)3523-0841 〈代表〉

〈日図協ホームページ URL〉

<https://www.jla.or.jp>

〈JLA メールマガジン申込先アドレス〉

mailmaga@jla.or.jp

*本文は中性紙(冷水抽出pH8.1)を使用



内部質保証

村上健治

大学は七年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関から教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関して評価を受けることが義務付けられており、これを認証評価制度という。広島大学は令和五年度に三回目の大学機関別認証評価を受けることになっており、大学全体で自己評価書を作成している。大学機関別認証評価で重視されていることの一つに「内部質保証」がある。教育研究活動等の状況について自己点検・評価をおこない、その結果に基づいて質の改善及び向上に継続的に取り組むことが求められている。

国立大学の法人化以降、大学図書館でも年度計画を立て、その目標を達成することが求められており、達成状況に基づいた評価がおこなわれてきた。自己点検・評価をおこなうため、この間に作成された諸統計を集め、主な統計の経年変化を見てみた。入館者数・貸出冊数・利用ガイダンス・相互利用等である。ただ、当初のもくろみとは異なり、新型コロナウイルス感染症流行の影響がとても大きいことを改めて知ることとなった。

令和二年度の利用に関する指標は大きく減少しており、令和三年度は回復傾向にあるが、依然として令和元年度の水準には届いていない。このよ

うなことは統計から容易に知ることができる。一方で数字には表れてこないこともある。この間、職員は新たな局面に対応するためにさまざまに工夫をしてきた。利用ガイダンスを録画して配信したり、利用者の自宅等へ図書の配送をおこなった図書館も多いのではないだろうか。しかし、このようなことを統計から知るのは難しい。

図書館サービスの質の改善及び向上を図る前提として、図書館の実情と問題点を明らかにすることが必要であることは、自己点検・評価や内部質保証という言葉が一般的になる前から指摘されている(※)。どのようにして図書館の実情と問題点を把握し、そこから課題をみつけて業務を改善していけばよいだろうか。私自身、いろいろと試行錯誤してきたつもりだが、なかなかうまくできていない。後世から評価された時に今までの試行は、すべて錯誤であったと総括されないことを願うばかりである。

※諏訪敏幸「自館の「図書館白書」をつくらうー大阪大学における、教職員組合による白書づくりの経験から」『図書館雑誌』一九九二 八六巻二号 九三―九六頁

(むらかみ けんじ／広島大学図書館)

NEWS

▶ 文字・活字文化推進機構、学校図書館法公布70周年記念事業を実施

2023年は学校図書館法が公布されて70周年となる。文字・活字文化推進機構では、いつも人がいて、読書や学習に役立つ資料が十分に整備された「子どもが主役」の学校図書館をつくるため、学校図書館をテーマにしたシンポジウムや記念事業を行っている。

また、学校図書館法公布70周年記念事業運営委員会は、2023年1月12日付で、学校図書館が自ら学び続ける市民の育成に大きく寄与することを願って、アピール「私たちは学校図書館を応援しています」を発表した。

今後は、アピールで提示した図書資料の充実、学校司書の待遇改善などの政策課題をテーマにシンポジウムを開催し、8月の記念式典を盛り上げ、世論の喚起を図りたいとしている。

アピール「私たちは学校図書館を応援しています」(文字・活字文化推進機構)：<https://www.mojikatsuji.or.jp/news/2023/01/12/6358/>

▶ 子供の読書活動推進に関する有識者会議「論点まとめ」を公表

文部科学省は12月27日に、「令和4年度子供の読書活動推進に関する有識者会議 論点まとめ」を公表した。本年度が「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」第4次の最終年度となるため、第5次基本計画策定の参考とするため、2022年6月に有識者会議が設置され、6回の会議が開催されている。この有識者会議による「論点まとめ」等を踏まえ、第5次基本計画が今年度末までに策

定される。

「論点まとめ」では、家庭・地域・学校での取り組み状況について、図書館数、図書館でのオンライン閲覧目録の導入率、学校司書を配置する学校等の割合は増加し、図書館の児童用図書の貸出冊数、全校一斉の読書活動を行う学校の割合は減少しているとしている。2022年度末までの達成目標だった不読率(小学生2%以下、中学生8%以下、高校生26%以下)は、現状において小学生6.4%、中学生18.6%、高校生51.1%と達成はできていない。基本方針として、不読率の低減、多様な子供たちの読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備、子供の視点に立った読書活動の推進、が掲げられている。

また、子供の読書活動の推進に関する施策についての計画策定については、次期基本計画期間において、市での100%策定、町村で80%以上の策定を目標としている。

▶ 国文学研究資料館、「日本古典籍総合目録データベース」と「新日本古典籍総合データベース」を統合
国文学研究資料館は1月10日に、「日本古典籍総合目録データベース」と「新日本古典籍総合データベース」を統合し、新たに「国書データベース」として提供を行うと公表した。稼働開始は2023年3月1日を予定している。

日本の古典籍の総合目録である「日本古典籍総合目録データベース」と「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」により構築された「新日本古典籍総合データベース」を発展的に統合することで、主として、近代以前に日本人が

著述した書籍(国書)の書誌情報と画像を集積したデータベースとなり、国内外の機関等が所蔵する国書の情報を検索・参照し、多くの画像を見ることができるようになるとのこと。

これに伴い、「日本古典籍総合目録データベース」と「新日本古典籍総合データベース」は、2023年2月28日をもって稼働を停止する。

「日本古典籍総合目録データベース」と「新日本古典籍総合データベース」は「国書データベース」として生まれ変わります：<https://kokusho.nijl.ac.jp/kokushodbj-20230110.pdf>

▶ 読売新聞、学校図書館の図書購入予算について調査

読売新聞は、今年度の学校図書館の図書購入予算について、全国168自治体に調査した結果を、12月26日朝刊の一面に掲載した。小学校で1人あたり予算の最高額は4,240円に対して最低額は316円、中学校で最高額は5,484円に対して最低額は206円となり、小学校で約13倍、中学校で約27倍の差があることがわかった。

文部科学省は2026年度までに全小中学校で「学校図書館図書標準」で示す蔵書数の達成を目指すとしているが、小学校については、36自治体が「十分な図書費を確保できていない」と回答しているという。今年度、国が地方交付税不交付団体を除く自治体に、図書購入費用として地方交付税計199億円を配分したが、これは用途が限定されないため、調査で2021年度に交付された図書費の「総額を把握し、全額を図書費に充てた」と答えたのは、139自治体のうち10自治体(7%)にとどまったとしてい

告知板

●つどい

■図書館政策セミナー「ランガナタンと『図書館学の五法則』を学ぶ」

「図書館は成長する有機体」、なんとなくわかったつもりでも、「図書館学の五法則」を深く理解したい！

ランガナタン（1892-1972）は、2022年の9月27日に没後50年を迎えました。本は人の成熟と成長のため、一人ひとり、すべての読者に本が届くよう、広い意味での教育のために使うもの。公共図書館・学校図書館・専門図書館、みんなで力を合わせれば、きっと地域や国や世界の発展につながるはず！ 吉植庄栄氏は、元日本図書館協会理事長、故竹内愷解説の『図書館の歩む道：ランガナタン博士の五法則に学ぶ』と出会い、ランガナタン研究を志し、インドの図書館まで行かれました。五法則をはじめ、ランガナタンの魅力をわかりやすくお話しいただきます。混迷した図書館を取り巻く状況の中、ランガナタンに学び、図書館の発展について考えてみませんか。

主催：日本図書館協会図書館政策企画委員会

日時：3月12日（日）14:00-16:30
（13:30開場）

会場：日本図書館協会研修室

講師：吉植庄栄（盛岡大学図書館副館長、文学部英語文化学科・司書課程准教授）

開催方法：会場（定員40名）／オンライン（定員80名）

参加費：会場＝500円（資料代）（会

る。

▶著作権法の一部を改正する法律の一部の施行期日を定める政令等を公布

2022年12月28日（水）、「著作権法の一部を改正する法律の一部の施行期日を定める政令（令和4年政令第404号）」、「著作権法施行令の一部を改正する政令（令和4年政令第405号）」及び「著作権法施行規則の一部を改正する省令（令和4年文部科学省令第42号）」が公布された。

新令・新規則では、新法第31条第1項第1号及び第2項において「政令で定めるもの」とされていた「全部の複製・公衆送信を行うことができる著作物」について、及び新法第104条に関して「図書館等公衆送信補償金に係る指定管理団体及び補償金関係業務の実施に関し必要な事項」が規定された。また、新法において「公布後2年以内」とされていた施行日が、2023（令和5）年6月1日と定められた。

以下、「令和3年通常国会 著作権法改正について（文化庁ホームページ）」より参照。

＊

「著作権法施行令の一部を改正する政令」及び「著作権法施行規則の一部を改正する省令」の概要について：https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/r03_hokaisei/pdf/93812401_01.pdf

著作権法施行令の一部を改正する政令（令和4年政令第405号）（条文）：https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/r03_hokaisei/pdf/93812401_02.pdf

著作権法施行令の一部を改正する政

令（令和4年政令第405条）（新旧対照表）：https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/r03_hokaisei/pdf/93812401_03.pdf

著作権法施行規則の一部を改正する省令（令和4年文部科学省令第42号）（条文）：https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/r03_hokaisei/pdf/93812401_04.pdf

著作権法の一部を改正する法律の一部の施行期日を定める政令（令和4年政令第404号）：https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/r03_hokaisei/pdf/93812401_05.pdf

▶書店議連、書店業振興に関する「中間とりまとめ」を総会で発表

「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」（書店議連）は、12月8日、憲政記念館代替施設で総会を開催し、書店業振興に関する「中間とりまとめ」を発表し、来年4～5月をめどに方針を定め、法制化および各種政策への反映を目指すとしている。

この「中間とりまとめ」では、「不公正な競争環境等の是正」「DXの推進」「文化向上・文化保護の観点からの支援」「収益構造確立・新たな価値創造への支援」を検討の方向性として挙げている。「不公正な競争環境等の是正」においては、図書館への納入に際しての入札時における過度な値引き、図書館のベストセラーや新刊本の過度な複本等が言われている。また、26.2%の自治体が無書店地域となっており、1店舗以下の自治体も45.4%にのぼると報告されている。

◆◆ NEWS ◆◆

場受付にてお支払いください) /
オンライン = 無料

申込方法: 件名を「3.12図書館セミナー」とし、以下を記載の上、E-mailでお申し込みください。

1 氏名, 2 所属, 3 連絡先 (電話, E-mailのいずれか), 4 参加形式 (会場, オンラインのいずれか)

申込締切: 3月3日(金) 17:00 (定員になり次第締切)

問合・申込先: 日本図書館協会・秦
☎03-3523-0816 E-mail: kikaku@jla.or.jp

■図書館九条の会 第18回学習会 「ウクライナとロシア 両方の国に暮らして」

主催: 図書館九条の会

日時: 3月5日(日) 13:30-15:30

会場: 日本図書館協会研修室

講師: 白井亮 (日本ユーラシア協会
事務局長)

内容: 両方の国に暮らした経験をもとに、生活者の感覚で見た両国の人々と社会を語る

参加費: 無料

対象: どなたでも参加できます。直接会場へお越しください。

オンライン参加申込方法: 下記へEメールにて (後日 Zoom 招待のリンクをE-mailで送ります)

問合・申込先: E-mail: info@tosho-kan9jo.net

■日本図書館協会非正規雇用職員セミナー「会計年度任用職員, 3年目の今」

会計年度任用職員制度発足後3年目、雇用止めなど各地でさまざまな問題が起きています。各地の情報交換を通して改善の方向を考えます。非正規雇用職員の皆さんの参加をお

こらむ 図書館の 自由

資料は、後世に伝えようとする、
人びとの意思によって残る
— 少年事件記録の廃棄問題報道から思うこと

西河内靖泰

昨年10月20日付神戸新聞は、1997年に起きた神戸連続児童殺傷事件の事件記録を神戸家庭裁判所が廃棄していたことを報じた。当時14歳の少年が逮捕された事件は、少年法の改正にもつながった重大犯罪であった。その事件記録が捨てられていたというのだ。その後、社会に衝撃を与えた重大事件とされる少年事件記録の廃棄の事実が各地で次々と判明する。

少年事件の記録には捜査や非公開の審判内容など貴重な文書が含まれるが、廃棄で一次資料による後世の検証が不可能な事態となった。最高裁は1964年の内規で少年事件記録は加害少年が26歳に達するまで保存すると定めている。さらに92年の通達では26歳以降も事件記録を事実上の永久保存とする「特別保存」を定めており、その対象は「史料的価値が高い」「社会の耳目を集めた」「調査研究の重要な参考資料になる」事件である。神戸の事件は、「特別保存」に該当するはずの資料だ。だが神戸家裁は、事件を「特別保存」の対象資料とせず、2008~19年の間に廃棄したらしい。2015年に元少年の手記の出版で世間が大騒ぎしていた時に記録はどうだったのだろうか。廃棄の事実が伝えられると、貴重な資料の喪失に対し批判が巻き起こったのは当然だろう。私も資料の廃棄には怒りを覚える。

ただ、その批判がしっくりこない。廃棄をした担当者は、記録保存年限の規定に基づいて処理しただけだ。彼らには、記録に公共的価値があるとか、後世の人びとが検証するために必要な状況を保つべきとの認識はない。「永久保存」しておくとは指定されていれば廃棄はなかっただろうが(「特別保存」の資料を廃棄した裁判所もあったが)、なければ事務的に処理するだけである。残そうという強い意思表示がなければ、資料は残らない。

人間が生み出してきたさまざまな文書や記録は、自動的に残ってきたものではない。図書館の資料もそうだが、後世に残そうという意思を持った、誰かがいて残ってきたものなのだ。そのことを少年事件記録の廃棄問題から、あらためて感じさせられたのだった。

(にしごうち やすひろ, JLA 図書館の自由委員会, 山口大学人文学部)

待ちします。

日時: 3月27日(月) 13:00-16:00

場所: 福岡県立図書館別館2階研修室

講師: 会計年度任用職員制度の問題

点と日本図書館協会の提言(小形亮: 日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会委員長), その他(報告: 九州各地から)

内容: 会計年度任用職員制度の学習

と情報交換、交流の会

申込方法：事前申し込み不要

参加費：無料

問合先：日本図書館協会・星川 ☎

03-3523-0816 E-mail: kikaku@jla.or.jp

■ハイブリッド国際シンポジウム

「書物の背後にあるもの：初期近代における書物のデザイン、生産、利用／Behind the Book: Designing, Producing, and Using Books in the Early Modern Period」

日時：3月4日(土) 14:00-17:00

会場：慶應義塾大学 三田キャンパス東館・Gラボ(6・7階) ※オンラインにてZoom配信可能(登録者にパスワード配布)

登壇者：Karen Limper-Herz (British Library, London), 雪嶋宏一(早稲田大学), 鈴木広光(奈良女子大学), 安形麻理(慶應義塾大学)

概要：書物の形態、用途、受容、社会的役割は変化し続けてきたし、今後も変化し続けるだろう。新技術の導入はしばしば転機となりうるが、その結果は単純には説明できない。こうした変化の背後には、著者、印刷者／出版者、校正者、彩色画家、製本職人、読者、コレクターらが共有する期待の地平の広がりがある。テキストとバラテキストにおけるさまざまな革新的な要素－書体／活字体、ページ・レイアウト、テキストの分割方法、読者のための実用的なツール－は、意識された期待も意識されていない期待もあふりだす手がありとなる。そこで、本シンポジウムでは、初期近代の西洋と東洋において、書物と書物の姿、また

人々が抱く「書物がどのような姿をしているべきか」という時代とともに変化する期待について検討する。

参加費：無料(要参加申込)

登録期限：対面参加＝2月26日(日)

／オンライン参加＝3月2日(木)

申込等詳細：<https://sites.google.com/keio.jp/behind-the-book/home>

／[keio.jp/behind-the-book/home](https://sites.google.com/keio.jp/behind-the-book/home)

■ルリユール工房「書籍の修理と保存(基礎コース)」講座

日時：4月11日～原則として第2・4火曜日(6か月・全10回) 18:15-20:15

会場：池袋コミュニティ・カレッジ
内容：本のクリーニング、保存容器の製作、小規模修理、本の紙と革について、ほか

定員：6名(定員になり次第締切)

講師：岡本幸治

受講料等詳細：下記問合先まで

問合・申込先：ルリユール工房(池袋コミュニティ・カレッジ内) ☎
03-5949-5494 FAX.03-3984-2755)

■全国図書館大会、全国公共図書館研究集会開催予定

○全国図書館大会

・2023(令和5)年 第109回

開催地：岩手県盛岡市

期日：11月16日(木)・17日(金)

・2024(令和6)年 第110回

開催地：長崎県

・2025(令和7)年 第111回

開催地：愛媛県

・2026(令和8)年 第112回

開催地：石川県

○全国公共図書館研究集会

＜サービス部門 総合・経営部門＞

・2023(令和5)年

開催地：和歌山県

・2024(令和6)年

開催地：高知県

・2025(令和7)年

開催地：静岡県

＜児童・青少年部門＞

・2023(令和5)年

開催地：長野県

・2025(令和7)年

開催地：九州沖縄地区

●その他

◆児童青少年委員会『ニュース・レター』no.30を掲載

児童青少年委員会では『ニュース・レター』no.30を日図協HPの児童青少年委員会のページに掲載した。内容は以下のとおり。

・大変だったけど充実 第42回(2022年)児童図書館員養成専門講座を終えて(島弘)

・IFLA(国際図書館連盟)児童ヤングアダルト図書館分科会ニュース(護得久えみ子)

・お知らせ 児童青少年委員会オンラインセミナー

・新石川県立図書館子ども室訪問記 2022.10.31(川上博幸)

『ニュース・レター』no.30: <https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/jidou/NewsLetter30.pdf>

児童青少年委員会のページ: <https://www.jla.or.jp/committees/jidou/tabid/275/Default.aspx>

◆お詫びと訂正

*本誌2023年1月号p.2「目次」8行目

(誤) 私という窓

(正) 本という窓

関係各位にご迷惑をおかけしたことをお詫びして、訂正いたします。

NEWS

新聞切抜帳

●全国

▶認知症の人の視点生かして 図書館利用しやすく[八王子市中央図書館] 当事者交え対応例 (毎日11/5)
 ▶全学校図書館をDB化 [文部科学省]有識者会議報告案 次期読書推進計画に反映 (日本教育11/7)
 ▶図書館の自由 戦時の反省と決意 「国策に加担」 続く権力介入 国の依頼文に危機感 「良書か判断するのは読者」

(朝日11/16, 関連1紙)

▶手取り9万円台…非正規司書の悲鳴 多い女性「図書館愛あっても生活苦」 待遇改善求め7万人署名 減る正規職「新制度」逆行の動きも 本と人をつなぐ場 高度化する専門性 (朝日11/28)
 ▶文[部]科[学]省 [子ども]読書[活動]推進[基本計画]へ具体策 (読売11/30)

●北海道・東北

▶赤ちゃんに絵本寄贈「ブックスタート」 東北の自治体 6割で導入 英国発祥 国内で事業開始20年 地域全体で子育て応援 (河北新報9/22)
 ▶[北海道新幹線] [JR]倶知安新駅に複合ビル 南北隣接地 フジなど再開発構想 [北海道倶知安町] 図書館など (北海道9/28)
 ▶[発信 千歳 地域から みんなでつくる図書館]上 好きな本持ち寄り交流 イベント盛況 署名実り移転 [まちライブラリー@ちとせ] (北海道10/26)
 ▶フィールドグループに [北海道]弟子屈町 複合型地域観光交流拠点整

備運営 (日刊建設工業10/27)

▶[発信 千歳 地域から みんなでつくる図書館]中 利用者が提案 企画続々 カードに感想 世代超え集う [まちライブラリー@ちとせ] (北海道10/27)
 ▶[発信 千歳 地域から みんなでつくる図書館]下 活発な民営 街も元気に 市内に7カ所 相乗効果生む [まちライブラリー@ちとせ] (北海道10/28)

▶海と山のそばに小さな図書館 遊佐[町]の2施設、本棚設置 景色眺め読めます／持ち帰りもできる [遊佐町立図書館 サンセット十六羅漢内に「海のとしょかん」、農林漁業体験実習館「さんゆう」内に「山のとしょかん」 山形県]

(山形9/22)

▶長井市交流施設[「くると」]の指定管理者候補 ニッケアウデオ SAD (大阪[市])に [図書館など]

(山形11/11)

●関東

▶[JR]高崎駅東口、再開発を再開 準備組合、ホテル誘致断念 [高崎市] 子ども図書館など]

(日経[首都圏]12/14)

▶地域活性化シンボルに 来春開館 佐倉[市]「夢咲くら館」完成 図書館や託児所、カフェ併設

(千葉日報10/20)

▶[憲法 忘れられない 場所]19 船橋市西図書館事件 「著者の期待 権認める」 閲覧開始後、蔵書選定には裁量 不公正な扱い違法 「九条守れ」の俳句不掲載[さいたま市立三橋公民館] (東奥日報11/11)

▶杉並区 西宮中[学校]と宮前図書館 複合改築 年度内に基本計画

(建設通信11/22)

▶図書館の本宅配拡充 羽村市[図

書館] 未就学児、高齢者にも 1月から (読売[多摩]12/8, 関連1紙)

▶多摩市立図書館 思い出作ろう 来年閉館&[中央図書館]開館 イベント案募集 (読売[多摩]12/10)

▶学び、憩う場「本の森ちゅうおう」 中央区 初日は7千人以上利用

[京橋図書館] (朝日[東京]12/13)

▶[藤沢]市が電子書籍の貸し出しを開始 [[ふじさわ電子図書サービス]] (神奈川10/19)

▶実施設計・施工者選定へ 厚木市の市庁舎など複合施設 延べ4.7万㎡ 基本設計は石本建築事務所 JV

[図書館など] (日刊建設工業11/1)

●甲信越・北陸

▶[舟橋]村[立]図書館と小中学校蔵書 相互検索 OK [富山]県内初 システム導入 (北日本9/28)

▶ボードゲーム 所蔵数、北陸一に [砺波市立]砺波図書館、吉田[一衛]さん寄付活用 (富山11/23)

▶[「知の拠点」のいま [山梨]県立図書館移転10年]上 好立地 貸出冊数伸びず 少ない蔵書「目当ての本ない」 来館者増 役割分担 (山梨日日11/11)

▶[「知の拠点」のいま [山梨]県立図書館移転10年]中 「本を身近に」 多様な活動 書店減少、市町村との連携必須 研修会開催 生活基盤に (山梨日日11/12)

▶電子書籍借りられます 甲府市[立図書館] 400冊 (読売11/12)

▶[「知の拠点」のいま [山梨]県立図書館移転10年]下 誰もが集まれる居場所に 次の10年 金田一秀穂館長に聞く 求められる役割 10年間で変化は オンライン化への対応 甲府の中心地から大型書店が姿を消しつつある 活字離れについて 10年後を見据えて

(山梨日日11/16, 関連1紙)
▶観光も楽しみ図書館めぐりを
[長野県]富士見町, 原村, 山梨県北
杜市 3市町村[としよかんめぐり]
スタンプラリー

(長野日報(統合)11/18)
▶[中信]松本駅周辺に図書館設置検
討「図書館未来プラン」[松本]市教
[育]委[員会]策定 市長「実現へ動
きたい」(中日11/29)
▶[発掘!中信 まち・人・くらし]
貸し出し順調 登録者増期待 大桑
村図書館 まもなく開館3ヵ月
[長野県](中日(長野・中信)12/18)

●東海

▶新図書館整備費 膨張の可能性
知事や業界要望受け[静岡県]県教[育]
委[員会] 県産木材利用拡大を検討
(静岡11/8)
▶図書館効果 高校生の居場所に
豊橋[市]・エムキャンパス開業1周
年 夜の飲食店集客に課題 利用者
は街へ? 効果は限定的 [豊橋市ま
ちなか図書館]

(中日(愛知・東三河)11/29)

▶旧統一教会関連本を所蔵 [三重]
県立図書館, 把握せず 記者が発見
「取り扱いを検討」(伊勢10/26)

●関西

▶基本構想支援を公告 大阪[府]・
岬町 図書館など複合施設整備

(日刊建設工業11/11)

▶あなたの選書並ぶ図書館 建築
士・起田[陽子]さん [大阪市]阿倍
野[区]に 本棚貸し出し 利用者交
流広がる[みんなの図書室 ほんむ
すび] 静岡[県]の施設 全国先駆け
(読売(北摂)11/23)

▶商業施設で図書[館]フェスタ 泉
佐野市企画 読み聞かせなど

(読売11/28)

▶[明石]住民が発案 [明石市]高丘
の集会所に「[明石まちなか]ブック
スポット」読書や会話弾む場に
料理本など200冊 ソファ, テーブル
設置(神戸11/16)

▶[神戸]宝塚市立図書館 全神戸市
民に利用対象拡大 きょうから
(神戸12/1)

▶図書館バッグ2代目へCF 広陵
[町立図書館]で開設25年 製作・イ
ベント費に [奈良県]

(朝日(奈良)12/11)

●中国・四国

▶楽器生演奏や童謡の朗読 [ちえ
の森]ちづ図書館2周年で記念演奏
会 [鳥取県智頭町]

(日本海12/3, 関連1紙)

▶休業温泉 文化・交流施設に 脱
衣所の棚を本棚, 浴場は創作室 浜
田[市] 住民憩いの場へ再出発 [ほ
たる湯館](山陰中央新報11/17)

▶[記者のイチオシ]究極の 岡山県
立 図書館 6部門制 専門性生か
した蔵書管理

(産経(大阪本社)11/9夕)

▶[岡山]県立美術館, 図書館 指定
管理者応募ゼロ 物価高騰影響 委
託料3割増額 再公募へ

(山陽11/16)

▶ライブラリー・オブ・ザ・イヤー
[2022]優秀賞, オーディエンス賞
[津山]市立図書館ダブル受賞 蔵書
相互貸し出し[津山工業高等専門学
校図書館, 美作大学・短期大学部図
書館]評価 大学, [市内]全6高[校]
などと連携(山陽12/13)

▶[鈴木]三重吉や[原]民喜…広島ゆ
かりの3万点 文人の思索の跡残す
道は [広島]市中央図書館保管 再
整備の焦点 遺族に見守る 岩崎文
人広島大[学]名誉教授(78)に聞く
原爆文学の直筆豊富 最適な環境

市は検討を / 中央図書館所蔵
3万点どう活用 広島文学資料近代
史語の一級品「再整備機に在り方
検討を」特別な管理せず 浅野文
庫1万点(中国11/23)

▶住民の学び合いの場に 図書館や
交流スペース [高知県]佐川町が新
文化拠点基本設計(高知9/28)

▶市民図書館親しまれ40年 土佐清
水[市]の“知の拠点” 利用促進へ
催しにも注力 講演やコンサート開
催(高知10/21)

▶新図書館「かみーる」開館 香美
市 家族連れら続々

(高知11/4, 関連1紙)

●九州・沖縄

▶みんなの「推し本」110冊を紹介
北九州[市立]・戸畑図書館 [[わた
しの推し本]](朝日11/6)

▶図書バッグ「役立てて」500枚贈
る ソロプチミスト八女 [筑後市
立図書館へ](読売11/12)

▶福岡[県]・吉富町 志賀設計と契
約 多世代交流型複合施設整備 基
本構想策定 [図書館など]

(建設通信11/18)

▶延べ3000㎡, 事業費22億円 新図
書館等複合施設 基本計画案 長崎
[県]・長与町(日刊建設工業11/22)

▶傾斜生かした建物配置 別府市
新図書館は3階延べ5000㎡

(日刊建設工業10/27, 関連1紙)

▶新築規模は4階延べ6291㎡ 伊佐
市 新庁舎基本設計案 [図書館な
ど](日刊建設工業11/1)

今月も石井一郎様, 岸本修様, 桑原
芳哉様, 梅野みな様, 森元綱様および
富山県図書館協会, 山梨県立図書館,
県立長野図書館, 小郡市立図書館, 筑
後市立図書館の皆様より記事の提供を
受けました。ありがとうございました。

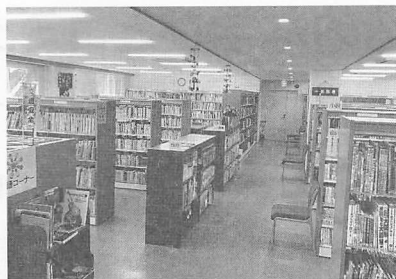
新館紹介



開館 2021年
3月24日
延床面積
1,298㎡

■ 神戸市立名谷図書館 (兵庫)

設計：エイムクリエイツ 〒654-0154
神戸市須磨区中落合2-2-4 大丸須磨店4階 ☎078-742-6560
▶地下鉄駅前の百貨店内4階に新設。六甲山材等の木を使用した温かみのある館内を一般と児童のスペースに分離し、目的に合わせた空間の両立を目指しています。(芳賀由紀子)



開館 2021年
4月3日
延床面積
411㎡

■ 鳥取市立用瀬図書館 (鳥取)

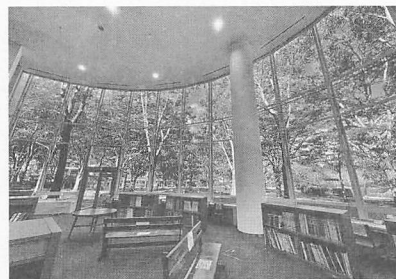
設計：白兎設計事務所 〒689-1201 鳥取市用瀬町用瀬832 ☎0858-87-2702
▶総合支所との複合施設として移転。高台にあり眺めよし。「流しびな」という情緒豊かな民俗行事を伝えるもちがせに、本と人・人と人との出会いの場を提供します。(沖田康夫)



開館 2021年
3月27日
延床面積
6,378㎡

■ 小牧市中央図書館 (愛知)

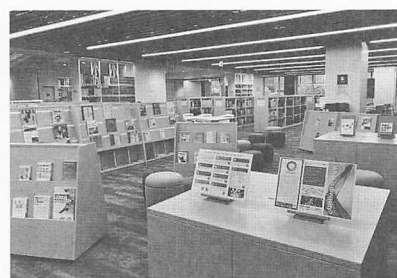
設計：新居千秋都市建築設計 〒485-0029 小牧市中央1-234 ☎0568-73-9951
▶豊富な蔵書、カフェやテラス席を含む多様な座席、Wi-Fi環境を有し、本を手にお茶を飲みながらゆったりと過ごせる「居心地の良い滞在型の図書館」です。(矢本博士)



開館 2021年
8月5日
延床面積
5,343㎡

■ 静岡市立中央図書館 (静岡)

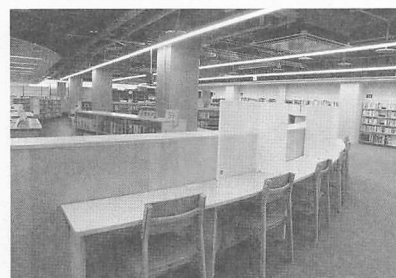
〒420-0884 静岡市葵区大岩本町29-1 ☎054-247-6711
▶設備の更新に加え、公園の景色を眺められる読書席や、公園につながる出入口を新設するなど、公園との一体化を目指し、飲み物を持ち込めるエリアもできました。(田中邦子)



開館 2021年
4月2日
延床面積
1,806㎡

■ 神奈川大学みなとみらい図書館 (神奈川)

設計：三菱地所設計 〒220-8739 横浜西区みなとみらい4-5-3 ☎045-664-3710
▶大きな特徴として、図書館外の共有部にも資料を配架し、キャンパスのどこからでもスマートフォンアプリによる資料の貸出を可能にしている。(小池孝昌)



開館 2021年
9月1日
延床面積
3,510㎡

■ 泉大津市立図書館 (大阪)

設計：フジワラボ・トミト設計共同体 〒595-0025 泉大津市旭町20-1 アルザタウン泉大津4F ☎0725-58-6856
▶南海泉大津駅前に移転オープン。ビジネス支援と学校支援に重きを置き、多種多様なイベントで多くの方に関わりを持っていただいています。毎日情報発信中です。(河瀬裕子)

創造的な学びとコミュニティが生まれる空間

——県立長野図書館「モノコトベース」の取り組み——

横山紗央里

県立長野図書館は、ビジョンの一つとして「考え、対話し、体験することによって獲得できる『実感ある知』の循環を生み出すために、ともに学び合い、新しい価値を創造できる、実空間と情報空間が融合した場を提供すること」を掲げている¹⁾。この将来あるべき姿を実現するため、県立長野図書館3階フロアの一部を改装し、2019年4月に「信州・学び創造ラボ（以下、ラボ）」をオープンした。その一角にある「モノコトベース」では、3Dプリンター、レーザーカッター、UVプリンター、カッティングマシンなどの電子工作機器を整備し、ものづくり体験を通じて新たな学びのかたちを考える実験的な活動を展開している。

インプットとアウトプットを通じた「実感ある知」

ラボのオープンからの約3年間、モノコトベースではさまざまな活動が生まれ、世代やものづくりの経験を問わず多くの利用者に足を運んでいただいている。ここでは、モノコトベースで継続的に実施されている二つのイベントを紹介したい。

ひとつは、UVプリンターを使って当館の真っ白なプラスチック製利用カードに好きな写真やイラストを印刷できる「オリジナルライブラリーカードづくりワークショップ」である²⁾。このワークショップは、誰でも気軽に電子工作機器に触れることができる機会となっており、参加者の年齢層は小さな子どもからご年配の方まで幅広い。また、このワークショップに参加した人が、モノコトベースの展示棚に飾られている過去の製作物を見て「自分もつくってみたい!」「こんなこともできそう?」と興味を持ち、今度は後述の「モノコトベース・オープンデー」に参加してつくってみる、という次のアクションにつながっているケースも多く見られる。モノコトベースは、多様な利用者の「知りたい」「やってみたい」という思

いを後押しする場であるだけでなく、新たな興味・関心の扉を開く「知の入り口」にもなっている。

もうひとつのイベントは、月に1度、誰でもモノコトベース内の電子工作機器や工具を使って自由に工作することができる「モノコトベース・オープンデー」である³⁾。モノコトベースでは、「成果」以上に「プロセス」から得られる学びを大切にしている。そのため、図書館職員やモノコトベースを拠点に活動するコミュニティが必要に応じてサポートしているが、創作するうえで必要な材料やデータの持ち込み、機械の操作など基本的にすべての作業を利用者自身が行う。イメージしていたとおりの作品が出来ないケースもあるが、「次はどうやったらうまくいくか」をその場にいる人たちで一緒に考えて、そこで得たヒントを次の作品づくりに活かしている。トライアル&エラーを繰り返しながら新しいものづくりにチャレンジすることができる環境が、モノコトベースならではの長である。

学び合いのコミュニティづくり

モノコトベースは「ここで獲得したものは、誰かに還す」という理念を掲げ、興味・関心が重なり合う人同士がつながり、交流し、誰もが教え、教えられる立場を経験する「学び合い」のあるコミュニティづくりを目指している。実際にオープンデーでは、利用者同士で電子工作機器の使い方を教え合っていたり、完成した作品を見せ合いながら情報交換をしていたりする光景が頻繁に見られる。

また、県立長野図書館は、県内におけるものづくりを通じた創造的な学びのプロセスを整えることを目的として、「信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター・FabLab長野」および「株

式会社アソビズム」と連携協定を締結しており、モノコトベースを会場としたものづくり体験のワークショップ等を開催している。こうした外部機関との連携を契機として、ものづくりをテーマとしたさまざまなコミュニティが生まれ、そのコミュニティ同士がつながることで新たな知的交流が起きることを期待している。

約3年間で見えてきた課題

このように、設置当初に込められた理念やコンセプトを常に意識し、問い続けながら動いてきた結果、オープンから今までの約3年間を通じて多様な活動と交流がモノコトベースで生まれた。その一方で、運営面ではいくつかの課題も浮かび上がってきた。

オープン当初には想像していなかった新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、来館を前提としてきたモノコトベースの運営に大きな影響を与えた。モノコトベースは、空間が狭い点や不特定多数の利用者が機器に触れる点から、感染防止対策を講じながら運営していく方法に苦慮した。やむを得ずイベントを中止した時期もあったが、鉛筆立てを工作する動画をYouTubeで配信し「動きつづけているコト」を見せる工夫をしたり、参加者がオンラインでつながってものづくりを楽しむ「オンラインもくもく会」を開催したりするなど、試行錯誤を続けた⁴⁾。「もくもく会」では、手芸や作曲、デジタルデータ作成などのさまざまな創作活動に取り組みながら、ものづくりに関心を持つ人たちがゆるやかにつながり、コロナ禍におけるモノコトベースの活動のひとつの新しい形をつくることができた。

モノコトベースの自立的な運営を目指して、利用時のルールやコミュニティのあり方など、今後さらに検討していくべき課題もある。ラボの設計前から続く対話型ワークショップ「ラボ・デザイン会議」は、こうした課題に向き合いながら、ラボで実現したいことをみんなで考えるプラットフォームとなっている⁵⁾。「モノコトベース」という名称も、活動を行う当事者であるコミュニティのメンバーや、関心を持つ人々が集まって対話し、今後のさらなる発展に期待を込めて名付けたものだ。

継続的にモノコトベースやラボの活動に関わり、図書館とともに試行錯誤してくれるコミュニティ

がいることはとても心強い。例えば「モノコトベースでの活動を通じて、より多くの若い世代にものづくりの面白さを知ってもらいたい」という声も寄せていただいております、コミュニティの存在なくしてラボは成立し得ないことを実感する。今後も、コミュニティとの関係性を大切に、対話を丁寧積み重ねていながら「共知・共創」の場を育てていきたい。

体験をデザインする学びの空間へ

モノコトベースは、「図書館にメイカースペースが欲しい」というメニュー選びの発想で生まれた空間ではない。設計前に空間デザインコンセプト等を考えるワークショップが開催されたところから、「この場所でどんな知的創造を行いたいのか」を問い続けてきた結果として誕生した、ひとつのタッチポイントだといえる。そして現在も、「モノコトベースで何ができるか」ではなく、「モノコトベースでどんなことをやってみたいか」という「体験をデザインする」視点を大切にしている。モノコトベースが創造的な学びの空間であり続けるためには、コミュニティとの対話を丁寧に積み重ねていくことが重要であると考えます。今後も、「これからの図書館」、「これからの公共空間」のあり方を、県立長野図書館の取り組みに関心を持ってくださる人々とともに考え、学び、創っていく「実験室」であり続けたい。

注

- 1) 県立長野図書館「ミッション・ビジョン『共知・共創の広場』」
<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/mezasukoto/mission/index.html>
- 2) 県立長野図書館「7月・オリジナルライブラリーカードを作ろう!」
https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/news/olc_202207.html
- 3) 県立長野図書館「モノコトベース・オープンデー #26」
https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/news/open-daylabo_202207.html
- 4) 県立長野図書館「Labo.Cafe#14 モノカフェ（オンラインもくもく会）」
https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/news/labocafe_220313.html
- 5) 県立長野図書館「ラボ・デザイン会議 #09」
https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/now/news/future-libnagano_210306.html

(よこやま さおり：県立長野図書館)

[NDC10：016.2152 BSH：県立長野図書館]

鳥取県ライトハウス点字図書館における読書バリアフリーの取り組み

酒井詩織

1. はじめに

鳥取県では、2021年3月に「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」（以下「同計画」という）が策定され、計画に基づく取り組みが開始されて2年が経過しようとしている。鳥取県立図書館と鳥取県ライトハウス点字図書館で連携し県内での読書バリアフリーを推し進める内容になっている。同計画の策定に当たり鳥取県ではさまざまな障がい・困り感を抱える当事者団体を交えた協議会が行われ計画が作成された。現在も年に2回ほどのペースで協議会は開かれ、経過報告などの情報共有がされている。

2. 鳥取県立図書館との連携について

鳥取県立図書館と当館の間では非常に円滑な情報交換、情報共有が出来ている。県立図書館からは県民への同計画・取り組み周知になるイベントには当館に声をかけていただき、当館職員が読書バリアフリー啓発をする機会を多く提供いただいている。また、今年度には県立図書館からの紹介で県内養護学校司書教諭が当館へ来館されアクセシブルな図書に関する研修を実施した。

一方、当館も市町村立図書館から相談を受けた事項等を県立図書館に日常的に共有している。この相互の情報共有が日常的にできていることは同計画を推進していく上で不可欠だと感じている。

3. 市町村立図書館との連携について

鳥取県には19市町村が存在し、市町村ごとに公共図書館がある。当館では毎年全市町村立図書館を巡回し、読書バリアフリーに関する情報提供・情報交換を行っている。

すべての市町村立図書館が当初から読書バリアフリーへの関心が高かったというわけではない。特に取り組み当初は「読書バリアフリー対象となる利用者がいない」ので必要な対応が分からない、という反応が多かった。

まずは市町村立図書館に読書バリアフリーに関する理解を深めてもらう必要性を感じ、以下の取り組みを継続して行っている。

- ・読書バリアフリーに関する研修などの案内を実施（2022（令和4）年度2回）
- ・巡回時に県内他館における読書バリアフリーの取り組み状況を紹介
- ・当館のサポート内容の説明（研修会・イベント時の講師派遣や展示物の貸し出し、サビエ未加入図書館（12館）へのデジ図書、再生機器等の貸し出し）

これらが奏功したかは定かではないが、少しずつ市町村立図書館の取り組みが見られるようになった。

具体的には今年度は、公共図書館から以下のような依頼・相談を受け、対応した。

- ・図書館職員向け読書バリアフリー研修会の実施 3館

- ・町民向け読書バリアフリー体験会の実施 2館
- ・りんごの棚（特別な配慮を必要とする子どもを対象とした本棚）設置に向けた相談 1館
- ・録音（デジ図書）再生機貸出希望 2館

現時点で「読書バリアフリー対象となる利用者がいない」という館にこそ、困ったことがあれば当館に相談するようお願いをしている。突然の利用者からの相談に対し、対応方法が分からないがために断りとなってしまうことがないように、当館が市町村立図書館の気軽な相談先になるように関係づくりを心がけて取り組んでいる。

4. 大学図書館への取り組みについて

市町村立図書館への情報提供と同様、県内の国公立および私立大学図書館（3校）への情報提供も行っている。県立図書館および当館からデジ図書等のアクセシブルな図書を貸出可能である旨を説明し、学生のみならず大学図書館利用者へ提供できる旨説明をしている。また、一般の学生にもアクセシブルな図書の存在を知ってもらう機会として、昨年度より鳥取短期大学において図書館司書資格取得を目指す学生に対しアクセシブルな図書の使用方法・操作方法を学ぶ授業を当館職員が講師として実施している。また、鳥取県からの通学も多い鳥根県立大学では視覚障害児教育総論の授業において同様の講義を実施し、学生にも広く知っていただく取り組みをしている。

5. 特別支援学校への取り組みについて

鳥取県立白兎養護学校において、マルチメディアデジ図書を授業に取り入れている司書教諭がおられたことにより、当館からマルチメディアデジ化する図書の選定を相談し、依頼を受けた図書のマルチメディアデジを製作した。当該マルチメディアデジ図書は実際の授業でも活用された。

6. 読字に困難がある発達障がい児への取り組みについて

当館では、アクセシブルな図書の啓発の中でも、発達障がいのある児童に対するマルチメディアデジの啓発に力を入れている。

まずは必要とする方にマルチメディアデジという図書の存在を知ってもらうことから取り組んでおり、具体的には、以下のような団体を対象に体験の場を継続的に設けている。

- ・保護者の会（発達障がい親の会等）
- ・支援団体（自閉症協会）
- ・療育施設（医師、言語聴覚士、作業療法士等）
- ・教育関係者（LD等専門員、養護学校教諭）
- ・鳥取県立図書館での一般の県民を対象にした体験会

体験会や説明会を開催する際には、当事者の親の会等の協力は不可欠だと感じている。必要とされている方への体験会開催の周知が可能になり、普段から連携されている教育関係者や福祉関係者などへの情報展開も行うことができる。

体験会の参加者から利用者に結びついた事例を以下に紹介する。

鳥取県教育委員会は、発達障がいのあるまたは可能性のある幼児児童生徒およびその指導に携わる教員、保護者等を対象に相談活動を行うLD等専門員を県内各地区に配置している。マルチメディアデジ体験会に参加され関心を持たれたLD等専門員の先生の協力を得られることになり、実際に読字困難を抱える児童の個別指導にマルチメディアデジを試験的に取り入れていただけたことになった。

現在、3名ほどの児童がマルチメディアデジ教科書を使い国語の指導を受けている。

小学校6年生の児童は、マルチメディアデジ教科書を使い、授業の予復習を行っているとのこと。

小学校1年生の児童には、あえて画面は見せず

マルチメディアデージー教科書の音声のみを聞かせ言葉のリズムを心身で感じる使い方をしているとのこと。

専門員の先生から利用した児童の様子や使い方をフィードバックいただき、活用事例として県内で広げていきたいと考えている。

一方、体験会を通して関心は持っていただくものの実際の利用に結びつきにくいという課題が見えてきた。その理由として次の2点があると考え

- ①保護者・支援者がPCやタブレットといった機器および機器使用に伴う一連の手順（アカウント取得など）に拒否反応があったり、忙しく準備する時間がない。

これについては、確かに手順は煩雑である。例えば使用する端末がiPadかAndroidかでも使用するアプリが異なる。サピエ図書館の個人会員登録をしないと図書を端末に直接ダウンロードはできないし、Wi-Fi環境の必要性も出てくる。これらの煩雑さが、「使ってみよう」の一步を妨げてしまっている。そこで、当館では貸出用にiPadを15台購入した。アプリをダウンロードした状態で再生機器（iPad）ごと貸し出し、サピエ図書館への個人会員登録のサポート等を行う体制を整えている。使い慣れるまでは、手厚いフォローが必要と感じている。

- ②利用者となる児童本人が求める・読みたい図書が十分に提供されていない。

我々点字図書館が提供できるマルチメディアデージーはサピエ図書館からダウンロードできる図書に限られる。しかし、実際に体験会を開催すると質疑応答の時間は、「マルチメディアデージー教科書」に関する相談・問い合わせに終始する。まずは日常的に読書困難に直面する教科書の方が喫緊の問題であることが分かった。そこで、当館では「マルチメディアデージー教科書」の取得の為の会員登録や使用アプリの案内、使い方などの

フォローも行い、機器（iPad）の無料貸し出しも行っている。

今後の取り組みとしては、市町村立図書館にてマルチメディアデージー体験会を定期開催する予定にしている。また会場に来られない方のために個別相談・個別体験会も対応できるよう体制を整えて行きたいと考えている。

7. 終わりに

当館でマルチメディアデージーの体験会用のチラシを作成するに当たり、子どもの頃からマルチメディアデージーを使ってきた社会人の方に、どういうチラシの見出しが読書困難を抱える方に響くか、アドバイスを求めた。答えは「一人で読書がしたい方へ」であった。

家族や知人、図書館の対面朗読では、読書をする際に当然湧き上がる感動や感情を制限してしまうことがあるのではないかと、そんなことに改めて気がついた。一人で没頭して読書をしてみたい、そう感じている方がいる。「誰もが読書ができる社会を目指して」、多くの関係の方の協力を頂きながら今後も取り組んでいきたい。

（さかい しおり：鳥取県ライトハウス点字図書館）
[NDC10：016.58
BSH：1. 鳥取県ライトハウス点字図書館 2. 障害者サービス]

特集●トピックスで追う図書館とその周辺

静岡県立中央図書館における 自治体資料自動収集システムの開発と今後の可能性

杉本啓輔

1. はじめに

静岡県立中央図書館（以下、当館）は、図書館のDX化にかかる実証実験として、静岡県内の自治体Webサイトにアップロードされた要項・要領、広報誌、行政資料等（以下、自治体資料）のPDFを自動収集するシステムを県内IT事業者と共同開発した。

本稿では、本システムを開発するに至った背景とシステム概要を記述する。また、2022年度図書館総合展で開催された「公共図書館における行政資料電子書籍化プロジェクトー新しい公共図書館の評価基準に向けて」というフォーラム（以下、フォーラム）において、本システムの今後の可能性について議論する機会があり、その内容の一部を紹介する。

2. 開発の背景

従来、自治体資料は紙媒体で発行されており、図書館はこれらを地域資料として収集、整理、保存、提供してきた。当館における自治体資料の収集は、県の他部署向けには要綱を定め、市町向けには文書を通じて寄贈を依頼している。

他方、昨今ではWebサイトに自治体資料をアップロードし、紙媒体の発行は行わない例も増えて

きた。Webサイトにしかない自治体資料も寄贈の対象としているが、実際のところ寄贈はほぼなく、情報の更新やサーバ容量等の都合による定期的な削除または非公開化により、自治体資料にアクセスできなくなることが問題となっている。

このことについて、当館では各Webサイトを定期的に目視確認する等、人手による収集を行ってきたが、収集漏れや職員の負担増という課題を抱えていた。

3. システム概要

上述の背景の中、静岡県三島市に所在する株式会社Geolocation Technologyから技術提案を受けて、クローラによる自治体資料自動収集システムを開発した。

クローリングの対象は県内の自治体Webサイトであり、ドメイン内に格納されているPDFを収集する。収集範囲はドメイン以下5階層目までであるが、5階層内のHTMLにPDFへのリンク（`<a href="*.pdf"></a>`）があれば、リンク先のPDFが収集範囲の対象階層外にあっても収集することとした。一方、外部ドメインへのリンクは収集しないこととした。

収集したPDFは、Googleドライブで収集した日

付ごとに、収集元のドメインと同じディレクトリ構造で、保存・管理している。各ドメインのクローリングについて、初回は、その時点におけるクローリング範囲内にあるPDFをすべて収集し、2回目以降の収集は月に1回、前回との差分（変更・追加・更新）を収集する。Webサイトの特性上、更新や非公開化にともない閲覧できなくなることを踏まえ、収集したファイルは、最新のものに加えて、以前にバックアップしたデータも保存している。これにより、ファイルがいつ収集されたのかを確認しつつ、非公開になっても参照することが可能となっている。

さらに、収集したPDFは2種類のディレクトリで管理している。一つは、収集対象すべてのPDFを機械的に保管しているディレクトリであり、もう一つは、それらをリネームしたPDFを保管するディレクトリである。リネーム処理は、自治体によって、ファイル名を乱数にしていることや、日本語のファイル名でアップロードしたことにより、意味を持たない文字列に置き換わっていることを考慮している。なお、現時点におけるリネーム規則は以下三つである。

- a) ファイル名が半角3文字以上の場合、リンク元テキストにリネームし、2文字以下の場合にはファイル名のままにする。
- b) リンク元のテキストに「こちら」や「ダウンロード」のいずれかの文言が含まれる場合、リネームせずファイル名のままにする。
- c) 同一のPDFに複数箇所からリンクがある場合かつリンク元テキストが同じだった場合、リネームの際に(1)、(2)などと連番を付与して保管する。

こうしたリネーム処理をすることで、ファイル名からPDFの中身のある程度想定することが可能となっている。

このシステムの有用性は、主に2点挙げられる。

1点目は、収集量の多さである。2022年4月末

時点で初回のクローリングを終え、収集できたPDFは45万5133件だった。この量の自治体資料を人手により収集することは非常に困難であり、自動化のメリットといえる。

2点目は、「どこから」、「いつ」収集したPDFが判別しやすいことである。これは収集元のドメインと同じディレクトリ構造かつ世代で管理していることによる。Webサイトの更新や非公開化にともない閲覧することができなくなる恐れがある自治体資料を、網羅的に収集し構造的に保存・管理できることは地域資料アーカイブの観点から見ても有用といえる。

他方、このシステムを実装レベルとするにあたり課題もある。特に、収集した自治体資料を用いた図書館サービスの開発に関してである。実のところ、現状において、このシステムは地域資料の収集と保存のためには有用であるが、整理と提供にまでは及んでいないのが現状である。

4. 図書館総合展での議論と今後の可能性

以上、システム開発の背景とその概要について記述してきた。ここからは、図書館総合展のフォーラムにおける議論等に基づき、収集できた自治体資料の可能性について記述していく。なお、以下の内容は、あくまでフォーラムにおける議論等をまとめたものである。現時点において、ここでの記載内容を当館が計画および実施する方向性ではないことをあらかじめ断っておく。

このフォーラムは、追手門学院大学教授湯浅俊彦氏がコーディネーターを務め、本システムを事例に、自治体資料の電子書籍化によるディスカバビリティ（発見可能性）とアクセシビリティ（音声読み上げによるバリアフリー化）の実現に向けた取り組みについてディスカッションしたものである。ディスカッションには、システムを共同開発した Geolocation Technology から顧問/IT コーディネーター（当時）の遠藤寿彦氏、電子書籍出版社であ

る株式会社 VOYAGER 企画部から蒲生淳氏、当館からは筆者が参加した。

当館の事例発表に続き、蒲生氏から、約45万点のPDFが収集できたが、アクセシビリティに問題があるとして、OCR（Optical Character Recognition：光学文字認識）を含めた電子書籍提供システムの提案があった。収集したPDFは、テキスト情報を持っていないものも含まれている。また、広報誌等の場合PDF内のデータの並びが不規則で、ページ全体の自動読み上げに不向きなことがある。機械的処理で完全な解決は難しいが、VOYAGERの電子書籍リーダーBinBでは部分選択（例えば、標題や行ごと）での読み上げが可能であり、OCRした後、ある程度の音声読み上げに対応することができるとのことだった。もちろん、部分選択での読み上げの際、その部分を指定する必要がある、こうした操作ができない利用者があることは想定できる。しかし、アクセシビリティの向上につながることは明らかであるため、こうした「仕組み」を構築するための実証実験の提案がされた。

蒲生氏の提案の後、湯浅氏からディスカバリティ向上のため、ディスカバリーサービスの紹介があった。ディスカバリーサービスの説明は割愛するが、そこでは本文検索が可能である。OCRと組み合わせることで、PDFというメディアに含まれている情報をフラット化することが可能であり、利用者の情報発見可能性を大いに向上させることにつながるとの提案がされた。

その他、遠藤氏は読み上げ機能のメリットを利用者目線で述べ、筆者からは、自治体資料と本文検索の相性の良さについて話題を提供した。紙幅の都合で内容の一部のみの紹介にとどまったが、フォーラムでは収集した自治体資料の可能性について活発な議論がなされた。フォーラムの様子はYouTubeで公開されているため、そちらも参照していただきたい¹⁾。

自治体資料自動収集システムは、開発発表直後

から大きな注目を集め、多くの場で発表や議論する機会をいただいた。これは多くの図書館にとって、自治体資料の収集に課題を感じていることの表れだといえる。この取り組みは始まったばかりであり、今後どのような図書館サービスへ発展させることができるか、その可能性を模索していきたい。当館の事例を皮切りにWeb上の自治体資料の収集に関して、活発な議論が展開されていけば幸いである。

参考

- 1) library fair. 2022-11-22. 公共図書館における行政資料電子書籍化プロジェクトー新しい公共図書館の評価基準に向けて.

<https://www.youtube.com/watch?v=IfduJNDg0N4&t=12s>,
(参照2022-12-9)

(すぎもと けいすけ：静岡県立中央図書館)

[NDC10：014.71]

BSH：1. 静岡県立中央図書館 2. 図書館資料収集]

特集◎トピックスで追う図書館とその周辺

山陽小野田市における「マタニティ・ブックスタート事業」の取り組み

山本安彦

1. この発端は2000年

「子ども読書年」だった2000（平成12）年、山口県では「山口の子ども読書年」推進実行委員会（以下「実行委員会」とする）が県内の子ども文庫や読書ボランティアの方々により組織されました。この実行委員会が同年7月、文部省から「子どもの心を育てる読書推進事業」として委嘱を受けたこともあり、この年は、2日に1度は県内各地で子どもと本を結ぶ活動が行われたというほどの状況を呈しました。

11月には、委嘱事業として「子ども読書年」山口県大会が開かれ、12月には、東京国際フォーラムで開催された「子どもの心を育てる読書活動推進全国大会」で事例発表も行いました。

「子ども読書年」が終わり、2001（平成13）年5月、「山口の子ども読書年」推進実行委員会は、「こどもと本ジョイントネット21・山口」（以下「ジョイネット」とする）と改称されます。

また、「子ども読書年」の成果の一つとして、同年4月、「ブックスタート支援センター」が設立されました。

イギリスに留学経験がありブックスタートを日本でもと提唱された佐藤いづみ氏とは2000年に東京でお会いしていたこともあり、ブックスタート支援センター設立後、2001年11月、山口県立山口図書館で開催された「第3回図書館振興県民のつどい」で「ブックスタートで本のひととき 赤ちゃんといっしょ」という演題で講演をしていただきました。

ブックスタートとともに赤ちゃん絵本への関心も次第に高まり、2002（平成14）年2月、下関市で

児童書専門店「こどもの広場」を主宰されている横山眞佐子氏と山陽小野田市在住の児童文学作家村中李衣氏お二人による「新春スペシャルトーク 人生ではじめて出会う絵本」（主催：ジョイネットほか）を山口県教育会館で開催しました。

こうした機運醸成の中、同年4月、玖珂町、由宇町、豊田町の3町が山口県では初めてブックスタート事業を開始します。また、同年8月には、再び佐藤いづみ氏によるブックスタート講演会が県内各地で開催され、ブックスタート事業への関心がさらに高まっていきました。

2. 独自事業の模索

ブックスタート事業が広がりを見せる中、ブックスタート支援センターによるブックスタートバックが画一的（同じバッグ、絵本の選定は決められたリストの中から選ぶ、など）なことへの異論がありました。

横山眞佐子氏や村中李衣氏は、ブックスタート事業の趣旨に賛同しながらも独自の案を提案されました。

横山眞佐子氏は、オリジナルのバッグを制作（デザインは絵本作家のあべ弘士氏）、絵本も独自に選定。村中李衣氏は、生まれてからでなくお腹の中に赤ちゃんがいるときから始めようと提唱されました。両氏とは子どもの本との関わりの中で長年一緒に活動してきたこともあり、思いは共感できるものでした。

3. マタニティ・ブックスタートはじまる

こうして山陽小野田市（当時は小野田市）では、村中李衣氏の提唱を受け入れ、2003（平成15）年8

月20日、全国に先駆けて「マタニティ・ブックスタート事業」を開始しました。

この事業の開始にあたり、その取り組みの意義について、「赤ちゃんに絵本をプレゼントする「ブックスタート」は300以上の市町村で実施されています。しかし、ほとんどの自治体で、乳幼児対象に配布されているため、育児に忙しいお母さんにとってはなかなか絵本にまで心が向かないのが現状のようです。そこで、小野田市では、妊娠中のお母さんへ、お母さん自らが選んだ絵本を配布することにしました。」(『広報おのだ』2003年6月号)と説明しています。

村中李衣氏も「絵本を通じて、夫婦だけでなく、家族みんなで、赤ちゃんに語りかけてください。そして、おなかの赤ちゃんが日々、大きくなっていくように、『赤ちゃんの誕生を待つ気持ち』を育んでください。胎教効果だけでなく、きつと出産後の育児においても良い影響を与えることでしょ(同上)とメッセージを寄せています。

マタニティ・ブックスタートは、マタニティスクールの終了後保健センターで行われました。ブックスタートパックには、10冊の絵本リストから選んでいただいた2冊の絵本と図書館案内、主旨が掲載されたパンフレットが入っています。バッグは、下関市と同様、絵本作家あべ弘士氏のイラストがプリントされたオリジナルのバッグです。

4. 子ども読書活動推進計画の中での位置づけ

2000年の「子ども読書年」、2001年の「子どもの読書活動の推進に関する法律」の制定、2004(平成16)年の「山口県子ども読書活動推進計画」の策定等の流れを受け、山陽小野田市では、2006(平成18)年、「山陽小野田市子ども読書活動推進計画」(以下「推進計画」とする)が、2013(平成25)年には「推進計画」(第二次計画)が、2018(平成30)年には「推進計画」(第三次計画)が策定されました。

この第三次計画では、読書活動推進の五つの柱を立て、その一つに「マタニティ・ブックスタートを起点とする切れ目のない子ども読書活動の推進」が明記されています。

図書館では、従来、乳幼児向けのおはなし会を毎週開催してきましたが、これに加えて、「子育て絵本カフェ」(毎月、現在はコロナ禍のため休止中)、「絵本で子育て出前講座」(年6回)、「絵本で笑顔! フォトコンテスト」(年1回)、「おやこヨガ」(年1回)、「ぬいぐるみの図書館おとまり会」(年1回)、「ちっちゃなかがくのおはなし会」(毎月)、「ブックハンター」(随時)、「校内放送ブックトーク」(毎月)、「中学生によるオススメの本の展示」(市内1校、年1回)、「高校生によるオススメの本の展示」(市内4校、各1回)、大人に向けては、「絵本の楽校」(毎月)、絵本作家や児童文学作家の講演会などさまざまなフォローアップ事業を行ってきました。今年度末に策定予定の「推進計画」(第四次計画)においても、この方針は受け継がれることになっています。

5. マタニティ・ブックスタートの今とこれから

さて、当初、2冊の絵本プレゼントで始まったマタニティ・ブックスタートですが、現在は図書館で選んだ2冊の絵本の中からどちらか1冊を選んでいただくことにしています。絵本は毎年度変わります。ちなみに、今年度は、『ぼんぼんポコポコ』(長谷川義史・作 金の星社)、『ここよここよ』(神沢利子・文 薮内正幸・絵 福音館書店)の2冊、配布率は100%です。

こうした中、2021(令和3)年10月、電子図書館システムが稼働しました。電子書籍収集の柱の一つを子育て支援としました。図書館へ行くことが困難な妊婦や子育て世代の方々に対して、育児や家事、レシピ本などの電子書籍や就学時前の子どもを対象としたおすすめのブックリストなども提供できるようになりました。今後は、電子図書館システムの中で、あるいは図書館ホームページなどを活用して、さまざまな子育て支援情報・新刊情報などを提供していくとともに、関係機関等と連携して定期的に交流会などを開催していきたいと考えています。

(やまもと やすひこ: 山陽小野田市立中央図書館)
[NDC10: 019.53 BSH: ブックスタートー山陽小野田市]

新聞博物館と学校図書館をつなぐ学習キット

—— デジタル時代に共通の言論空間つくる社会教育施設の役割 ——

尾 高 泉

本稿は、図書館資料でもある「新聞」というメディアと、図書館と共通する社会教育施設である「博物館」の役割、双方の視点から書かせていただく。

当館、ニュースパーク（日本新聞博物館）は、全国の新聞、通信、放送123社で構成する日本新聞協会が運営する「情報と新聞」の博物館である。1871年に日本初の日本語日刊紙「横浜毎日新聞」が創刊されたことを縁に横浜にある。日本の近代化と新聞の歴史を伝えつつ、SNS社会のメディア環境をふまえ、現代と過去の両面から、確かな情報を見きわめる力の大切さと、新聞・ジャーナリズムの役割を伝えている。

来館者の半数は小中学生の校外学習の団体で、そのための展示や各種教育プログラムを運営している。「新聞とは何か」から始まり、新聞の読み方、人の話を記事にまとめて伝えていく力を育てる講座のほか、次世代への戦争伝承、情報リテラシー教育に力を入れている（詳細は当館ウェブサイトご参照）。特に、教育現場に、「新聞」と「博物館」の組み合わせをより重層的に届けているのが、「学校図書館」との連携である。

まず、新聞と教育の親和性について述べると、新聞と教育は、「良き市民をつくる」という点で目標を共有している。日本では1985年から、新聞界と教育界が全国各地でNIE（Newspaper in Education = 教育に新聞を）活動を展開しており、学校での新聞活用を推進してきた。2020年度から順次実施された学習指導要領の総則には、「新聞活用」が明記され、どんな校種、単元、領域でも新聞活用ができることを示す実践授業が、全国で取り組まれている。

新学習指導要領ではまた、探究学習の場としての学校図書館が注目され、理念の一つに、「社会に開かれた教育課程」がうたわれたことから、博物館と学校図書館の連携には期待が高まってきた。

当館では2017年から、長く神奈川県内で学校図書館の活用を通じたNIE実践をしてきた元司書教諭と、学校図書館で子供たちと図書資料をつないでいる学校司書の方などが、ボランティアとして、学校に貸し出す「学習キット」（新博キット）を作ってくださっている。学校図書館（学校司書）が校内のハブになることで、新聞を使った学びがクラス単位から全校に広がっていく。もともと新聞協会で教育事業をやってきた私は、博物館も、公共図書館の団体貸し出しと同じようなことができることを知り、来館者を待つだけではなく、学校図書館を通じて次世代の学びを直接サポートできることを教えていただいた。

当館の「新博キット」は、博物館ならではの所蔵資料や全国の新聞社の紙面からテーマに沿った内容を資料化した。キット制作グループが授業支援をイメージしながら資料を選び、博物館側は必要な著作権処理を行う。当館のウェブサイトで「比べ読みなど、新聞活用のヒント」「防災・減災、災害報道」「（横浜・鎌倉町歩き）地域調べ」「戦争など、歴史を読み取る」など、テーマごとのキットリストを公表しており、全国の新聞各紙の実物・写真資料、データベースから印刷した記事、図書資料を活用プランと一緒にパッケージにした。



▲当館の新博キットを活用した学校図書館例
（関東学院六浦中学校・高等学校、当館サイト参照）

関連活用プランには、校種や授業時間や活動の流れ、必要な文具、会場の広さまで記している。送料を負担いただければ利用は無料。校外学習の事前・事後学習にも活用できる。キットのテーマはいつも、メンバーが主体的に検討する。

例えば、関東学院六浦中学校・高等学校の図書館では、司書教諭と学校司書が防災教育に関連した新聞資料と蔵書を組み合わせでコーナーを作り展示した（写真）。展示を見に来た社会科の教員と地理の授業での活用を検討、理科の教員からは温暖化と台風関連の新聞記事収集の依頼もあったという。

最新キットは、博物館の企画展示準備のノウハウを参考に、「テーマを決めてミニ企画展示をやってみよう」というもので、まずはSDGsをテーマに例示した。より学校司書が主体的に取り組みやすいものになり、図書館ならではの本格的な調べ学習の学びが取り入れられている。何よりも、司書という職能の専門性を発揮できて、学校司書の人たちは誇りをもってキットを作り、自分たちの学校でも活用している。メンバーが他の地域や他校の学校司書の勉強会の場でキットの紹介をすると、高い関心が寄せられているという嬉しい報告もあった。今後は、「コロナ禍を考える、確かな情報を見極める」などをテーマに、当館の2020年夏の企画展実績をキット化していく予定だ。博物館の企画展が事後に学校図書館の学びにつながっていく。

当館内で配架を終えた全国約120の新聞紙面もキット化し、こちらは返却不要として自由にスクラップ活動などにも使ってもらっている。同じ日付の各紙を読み比べることで、地域性や価値判断の視点の違いとともに、「新聞」共通の特性も知ることができる」と好評を得ている。

後段は、なぜいま、公共図書館、学校図書館と博物館の連携が必要なのか、社会の変化やメディア論の側面から述べてみたい。

博物館は次世代が手に取るものを毎日記録し、守って伝えていく仕事をしている。社会教育施設は、社会課題と無縁ではなく、学習指導要領策定時の中央教育審議会でも、人口減少時代の地域の活性化の拠点としての社会教育の振興施策が重要視された。2022年に博物館法が70年ぶりに改正され、世界博物館会議（ICOM）でも新しい博物館の定義が採択された。従来の「資料の収集・保管、

展示・教育、調査研究を行う社会教育施設」から進化して、街づくり、国際交流観光、産業、福祉といった関連機関と連携した「文化観光拠点」として、多様な役割が期待されている。人口減少・過疎・高齢化、地球温暖化やSDGsなどの社会課題、ソサエティ5.0と呼ばれる技術革新の時代にも対応しようと、各館が連携している。

併せて、多様性、社会的包摂を推進する場としての役割も期待されている。地域の人々が協働して運営する場所、「人と資料」だけでなく「人と人」をつなげる活動も増えている。「ブルシットジョブ」という言葉を遺し、コロナ禍に亡くなった米国の文化人類学者のデヴィット・グレーバーは生前、コロナ後の世界に託した「ミュージアム・オブ・ケア」という構想を記した。リモートワークが広がり、空きが目立つ都心のスペースの活用として、氏は「ミュージアム」という表現を使い「社会的な関係性を生み出し、持続させる」場所を提唱した。読書グループやパブリックアートプロジェクトや人々の集まり、教育プログラムなどに活用し、誰もが歓迎されるパブリックスペースを創ろう、というメッセージだ。図書館の世界では、ニューヨーク公共図書館や日本各地の「まちライブラリー」の活動など、先行例がある。

特に今は、人々の情報行動がスマートフォンやSNSに集中し、真偽ないまぜの大量の情報が一瞬で拡散し、「フィルターバブル」「アテンションエコノミー（関心経済）」と呼ばれるように、各自が関心のある情報だけに接して社会の分断が進む。こんな時代こそ、異なる意見を持つ多様な人々が、世代や属性を超えて集まり、時に癒し合う場としての「新聞」や「博物館」を利用することは、特別な意味があると考ええる。テクノロジーが編集アルゴリズムや広告収益を駆動させ、ニュースや広告の方から自分を探して届けてくれる社会では、「セレンディビティー」（未知のものとの偶然の出会い）を作り出す「パブリックな言論空間」の価値は増している。

博物館と図書館の連携が社会を良くしていけるように、関係者の情報共有や連携が進むことを期待して、本稿の機会を頂いたことに感謝を申し上げます。

（おだか いずみ：ニュースパーク（日本新聞博物館）館長）

[NDC10：070 BSH：1.新聞博物館 2.学校図書館]

高崎商科大学図書館における 「good title books@TUC 図書館」の取り組みについて

高橋美樹子

1. はじめに

高崎商科大学（以下本学）は2001年4月に開学した。群馬県高崎市にあり商学部経営学科、会計学科と短期大学部を併設している。図書館は短期大学開学の1988年に開館した。

本学は、「自主・自立」の建学の精神のもと、「学生が主体的に学ぶこと」を大切にしている。2017年本学では「世界初の自己発見」という企画を行い、元電通クリエイターの倉成英俊氏と本学学生の交流が始まった。今回は倉成氏がオープンしたweb書店「good title books」¹⁾の「良いタイトルの本のみを扱う」という趣旨に、学生が本の魅力に気づくきっかけになるのではとコラボ企画を依頼し、リアル書棚が本学図書館に実現した。

2. 「good title books@TUC 図書館」オープン

2022年9月10日、「良いタイトルの本を集めた書棚を作る」ことを目的としたワークを開催した。実際に「good title books」で販売する本の中から40冊を館内に用意した企画棚に配架し、棚の半分は空いている状態で参加学生と興味のある教職員が集合し、倉成氏から良いタイトルの本が持つ魅力についてのお話を伺った。コピーライターとして活動してきた倉成氏は、書棚に並んだ本を手に取り、その本のエピソードや魅力を話しながら、仕事柄多くの本を収集してきたこと、そして本のタイトルからさまざまなヒントをもらうこと、良

い本との出会いは人生の指針となることなど、本の持つ力を学生に伝えた。

残りのスペースに館内から選んだ「良いタイトル」の本を並べて完成させようという声掛けで参加者は一斉に書架ブラウジングしていく。この日は閲覧室のほか、閉架書庫も開放した。OPACの利用は制限していなかったが、参加者はほぼ書棚の前を行ったり来たりしながら目に留まった本を手にとっていく。時折参加者同士会話を楽しみながら、タイトルを追っていく。時間はあっという間に過ぎ、本学の蔵書からタイトルの良い本40冊が集まった。

実際に参加者が選んだ本の一部を紹介したい。『男が家事をしない本当の理由』淵上勇次郎著、『汚れた手をそこで拭かない』芦沢央著など。偶然にも学生が選んだ1冊は本学学長の著書であった。

選んできた本を机に並べ、なぜそのタイトルに惹かれたのか全員で意見交換を行った。参加者はタイトルからさまざまなことを想像して興味を持ち、選んだ楽しみを共有することができた。その後、自らの手で書棚に並べ「good title books@TUC 図書館」の棚は完成し、オープンした。このワークの内容は本学HPで動画を公開している²⁾。

web書店「good title books」では倉成氏の書評が紹介されている。それを読むことができるよう書棚にはQRコードのPOPを掲示した。本の魅力を伝えるべく、後日数週間かけて、参加学生も書

評の執筆に取り組んだ。本学メディアセンター長滝井元視准教授の指導のもと、およそ1,600字の書評を書き上げた。書評を書くことで読書活動を深めることができ、他人に伝える力を身に付けた。

また、12月12日にはGOODという文字を組み合わせた書棚をコーナー内に設置するワークを開催した。この書棚はクリエイター鈴木舞氏による伝統工芸の組子を応用したデザインである。学生に近い若いデザイナーが手掛ける作品に触れることは良い刺激になると考え、制作を依頼した。鈴木氏からこの書棚をつくるきっかけ、現在の仕事に携わる経緯などのお話を伺った後、学生と一緒に組み立て作業を行った。この書棚はアイデアによりさまざまな形に組み上げることができるため、作業を通して学生が試行錯誤する様子が見られた。作業後は、満足した学生の表情とともに、館内に明るく居心地の良い空間が出来上がった。



▲本学図書館内「good title books@TUC 図書館」

3. 「good title books@TUC 図書館」の効果

9月11日のイベントが終了し、実際に書棚が利用され始めた。足を止め、目の前のソファで閉館時間まで夢中で本を読む学生や、貸出する学生も増えた。また、図書館総合展のサテライト会場としてエントリーしたことや、本学の取り組みが新聞掲載されたことで、地域の方にも利用していただいている。「良いタイトルのみを集める」とい

うコンセプトが来館者に興味を持たせ、メッセージ性の強い本を前に「読みたい」と思わせる効果があるのかもしれない。

今回の「良いタイトルの本を選ぶ」という活動で最も大きな成果は「本を選ぶ楽しみ」を感じることができたことだろう。参加者からは大学生になりレポートのために本を選ぶことが増え、目的の棚に向かい必要なものを探すことが多いという意見が上がった。自分の興味関心に焦点をあてて本を選ぶということがこんなにも楽しいのかと気づいたと話していた。小学生の頃は面白ければ何度でも読み返していたのに、今は必要な本の目的の章を読むだけ、楽しんでいないことに気づけたという参加者もいた。

また、参加者が選んだ本を紹介し合うということも楽しめた理由だろう。本学ではビブリオバトルを毎年行っているが、これは1冊の本を読み込む必要がある。そのため読書活動は深まり、参加者同士の本の共有や交流もより深いものになる。しかし、今回はタイトルの情報のみで内容は読んだことがなくてもよく、惹かれた理由のみを共有していく。自分では気づかなかったタイトルに触れることができ、紹介した人は他人が共感してくれることで充足感も得られる。読書活動の楽しみを気軽に実感できるイベントであった。

また、新しい目を引く書棚が増えたことも学生の興味を惹き、図書館滞在時間を増やすきっかけになった。

4. 今後の展望

「good title books@TUC 図書館」は始まったばかりである。これからも図書を更新しながら学生に本の魅力を伝える書棚にしていきたいと考えている。そのためにも、学生自身が良いタイトルの本に出会う場の提供をしていきたい。今回のように本を探す作業はもちろん、読後の感想を共有したいと考えている。アナログではあるが付箋で次

の読者に感想やメッセージを書き、本に貼っておくという試みを始めてみた。また教員からは気になった本を投稿する場が欲しいとのご意見もいただいている。図書館のこの書棚をきっかけに学生の読書活動のサポートをしていただいていることに感謝している。

現在、学生の読書率が低下していると言われていが、学生は図書館を利用しないわけではない。学修のため資料を探しに来る学生は多い。そんな中、昨年度の本学の貸出数統計で初めて就活対策本が小説を超え1位となった。ここに最近の若者の生活が垣間見られる。Z世代に広くみられるタイパ³⁾志向だが、読書もタイパを重視することに重きが置かれ、知識を得ることを重視した結果なのだろうか。活字を追わずとも、動画で情報を得る世代だ。読書は一字一句活字を追い、場面を想像し、情報をかみ砕く必要がある。しかしその想像力が思考力を育み、発想力につながり、画一的な思考から一歩進んだ主体的な学びにつながるのではないか。

学修に必要な情報提供を行うことは大学図書館に必須の役割ではあるが、本学の学生には多くの教養や研究分野外の知識にも触れ、知見を広げ「生きる力」を身に付けてほしいと考えている。そのための「good title books@TUC 図書館」でありたい。

5. おわりに

読書は一生涯続けることができる活動である。学生時代に読み強く印象に残らなかった本が年を経て心に響くことがある。逆に、若い時に出会っていたら、より心揺さぶられていたのではと思うこともある。普段手に取らない本からもヒントを得ることがあり、自分が関わったことのない世界も本を通して近づくことができる。学生が本の魅力に気づく機会を提供し、生涯を通して読書活動を続ける力を身に付ける場の提供を行うことも、

現在の大学図書館に求められる役割と捉えていきたい。

注

1) <https://goodtitlebooks.stores.jp/>

2) <https://youtu.be/Rj8YkvcbZQY>

3) タイムパフォーマンス。時間的な効率。能率。

(三省堂「今年の新語2022」参照)

<https://dictionary.sanseido-ubl.co.jp/shingo/2022/best10/>

(たかはし みきこ：高崎商科大学図書館)

[NDC10：014.1 BSH：1. 高崎商科大学図書館 2. 資料選択法]

会員募集のご案内－会員の皆さまへ

日本図書館協会（JLA）では正会員，準会員，賛助会員を募集しております。

本法人は，全国の図書館の発展，文化の進展を図る事業を行うことにより，人々の読書や情報資料の利用を支援し，もって文化，学術，科学の振興に寄与することを目的としています（定款第3条）。

これからの日本の図書館界に清新な活力を注いでくださる皆さまのご参加を求めています。会員の皆さまにおいては積極的な勧誘をよろしくお願い申し上げます。

詳細については本法人ホームページ「入会のご案内」をご覧ください。

<https://www.jla.or.jp/membership/tabid/270/Default.aspx>

日本図書館協会の活動を豊かなものにするために

ご寄附のお願い

本法人は，全国の図書館の進歩・発展を図るため，図書館運営の支援および政策提言，図書館職員の育成並びに研修・講習や図書館運営に関する調査・研究・資料収集，機関誌等の刊行など，図書館活動を通じたさまざまな事業を展開しています。

こうした公益目的にかなう事業のさらなる充実を図り，21世紀のよりよい文化的社会を築いていくため，広く市民や会員の皆さまからのご寄附を受け付けております。

なお，本法人への寄附金には特定公益法人としての税制上の優遇措置が適用され，所得税・法人税の控除が受けられます。

詳細については本法人ホームページ「ご寄附について」をご覧ください。

<https://www.jla.or.jp/jla/tabid/457/Default.aspx>

charibon^{チャリボン} by V.B.

あなたの本のご寄附が全国の図書館を支えます。



皆様の読み終えた本が図書館をサポートする活動に役立ちます。ご提供いただいた書籍、CD、DVD等を提携会社が買い取り、代金が日本図書館協会への寄附金となります。段ボールに詰めてご連絡ください。5冊（点）以上なら送料はかかりません。

古本を寄附
書籍類を梱包



集荷
配送会社



仕分け・査定
VALUE BOOKS



ファンドレイジング
日本図書館協会

5冊から送料無料

買取相当額の寄附

<https://www.charibon.jp/partner/jla/> TEL:0120-826-295（バリューブックス）



霞が関だより

▶第231回

◎文部科学省

文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案

令和5年度文部科学省予算案の内容が公表されました。図書館・読書活動の推進関連予算案は以下のとおりです。

文部科学省における図書館・読書活動推進関連予算案一覧

(単位：千円)

事業概要	事項	令和5年度 予算額(案)	令和4年度 予算額	比較増 △減額
図書館における障害者利用の促進				
「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)の趣旨を踏まえ、先導的な読書バリアフリーに関する研修や関係者が連携した取組を支援するとともに、これらの取組の成果を全国に普及することにより、地域の実情を踏まえた効果的な読書バリアフリーの取組を推進する。	(1) 障害者サービス検討委員会の設置等 (2) 司書・職員等の支援人材、ピアサポート人材の育成 (3) 読書バリアフリーコンソーシアムの設置等	12,220	14,087	△1,867
読書活動総合推進事業				
高校生等の不読率の改善、「新しい生活様式」などに対応した読書活動や新学習指導要領を踏まえた学校図書館の機能強化や活性化に向けた特色ある先導的な取組に関するモデル事業、司書教諭講習、「子ども読書の日」の普及開発、著作権法の改正に伴う図書館の現場負担の軽減に向けた読書活動の推進等に関する調査研究などの取組を実施する。	(1) 図書館・学校図書館等を活用した読書活動の推進 (2) 司書教諭講習の実施 (3) 「子ども読書の日」の理解促進 (4) 読書活動の推進等に関する調査研究	45,331	51,880	△6,549
社会教育デジタル活用等推進事業(新規)				
全国の社会教育施設(公民館・図書館等)におけるデジタル環境の整備や効果的な活用、施設の整備や運営におけるPPP/PFIの活用を一層促進するため、全国をカバーする支援体制を構築し、自治体等からの相談対応、アドバイザー(専門家)派遣、情報交換プラットフォーム(Webサイト)の開設等による伴走支援を行う。	デジタル活用推進・PFI活用アドバイザー、新たなPPP/PFI案件形成支援	48,604	0	48,604

参考：文部科学省ホームページ「令和5年度予算」

https://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/r01/1420672_00008.htm

【自治体向けの委託事業について】

- ・令和5年度の公募情報については、準備が整い次第、各自治体に周知予定です。
- ・令和3年度までの成果報告書は、文部科学省ホームページ「図書館の振興」内の「読書活動の推進等に関する委託事業」に掲載しています。

[NDC10：011 BSH：図書館行政]

図書館における障害者利用の促進

令和5年度予算額(案) 12百万円
(前年度予算額 14百万円)



趣 旨:

令和元年6月に成立した「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」(読書バリアフリー法)は、障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することを目的としている。また、読書バリアフリー法に基づき、令和2年7月に決定された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」(読書バリアフリー基本計画)では、具体的な施策として、視覚障害者等の円滑な利用のための支援の充実、司書・司書教諭・学校司書等の資質向上、組織の枠を超えた取組や関係者間で連携した取組が行える体制構築などが具体的な施策としてあげられている。

このため、先導的な読書バリアフリーに関する研修や関係者が連携した取組を支援するとともに、これらの取組の成果を全国に普及することにより、地域の実情を踏まえた効果的な読書バリアフリーの取組を推進する。

事業内容

1. 障害者サービス検討委員会の設置等 4,336千円

視覚障害者等の図書館利用に係るサービスの充実を図るため、有識者、自治体、公立図書館、学校図書館、大学図書館等の関係者で構成される委員会を設置し、振興方策の検討を行うとともに、実態調査や事例の収集等を行う。

2. 司書・職員等の支援人材、ピアサポート人材の育成 1,872千円

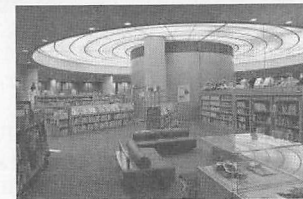
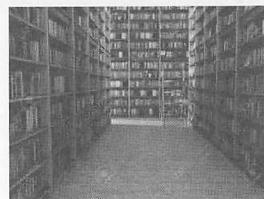
司書、司書教諭・学校司書、職員、ボランティアが障害者サービスの内容を理解し、支援方法を習得するための研修や、読書支援機器(拡大読書器、DAISY再生機など)の使用法に習熟するための研修等を行う。また、障害当事者でピアサポートができる司書・職員の育成や環境の整備を行う。【2箇所】

3. 読書バリアフリーコンソーシアムの設置等 6,012千円

公立図書館、点字図書館、学校図書館、大学図書館等によるコンソーシアムを構築することにより、各館の資源の共有や人材の交流等を図るとともに、図書館を利用する視覚障害者等の増加を目的とした広報の強化を図る。また、これらの成果の普及及び読書バリアフリーの理解促進を目的としたフォーラムを開催する。【2箇所】

【対象者・事業種別等】

- 1 国 (本省直轄事業)
2. 3 国 → 地方公共団体・民間団体
(委託事業)



成果の普及: ①研修のプログラム・教材について文部科学省及び関係団体等のホームページで公開する。

②地域において構築されたコンソーシアムの成果をフォーラム等で発信するとともに、ネットワークが恒常的なものとなるよう多様な資金調達の方法等を検討する。

(例: 図書館基金の設立、ファンドレイザーの配置、ふるさと納税の活用等)

読書活動総合推進事業

令和5年度予算額（案） 45百万円
（前年度予算額 52百万円）



文部科学省

背景・課題

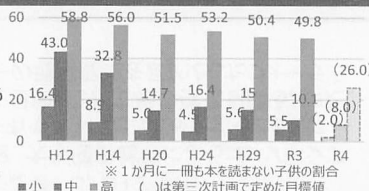
○国の計画への対応

・「子供の読書活動に関する基本的な計画」（R5～R9）

R5からの次期計画を策定予定。発達段階ごとの効果的な取組や読書とICTのベストミックスのための方策などを検討するとともに、高校生の不読率（1か月に1冊も本読まない子供の割合）は依然として高い。

・第6期「学校図書館図書整備等5か年計画」（R4～R8）

R4年度からの第6期計画を踏まえた国の支援策が必要。特に図書の更新が課題。



○取り巻く情勢の変化

- ・GIGAによる一人一台端末の整備を踏まえた学校図書館の利活用が課題。
- ・3密を避けるなど「新しい生活様式」が提唱され、オンラインを活用した取組が課題。
- ・著作権法改正により、図書館資料のメール送信等が可能となることを踏まえ、図書館における新たな業務への現場負担の軽減が課題。

○読書活動の総合的推進

- ・従来、読書活動の推進については学校図書館や図書館など個別の事業内で実施してきたが、図書館、学校、民間団体など幅広い関係者・機関が連携し、一体となった読書活動を総合的に推進することが必要。

事業内容

「子供の読書活動に関する基本的な計画」等への対応のため、図書館や学校図書館等を活用した読書活動を総合的に推進するための以下の取組を行う。

図書館・学校図書館等を活用した読書活動の推進 7,291千円

「新しい生活様式」や「子供の読書活動に関する基本的な計画」等に対応した読書活動や新学習指導要領を踏まえた学校図書館の機能強化や活性化に向けた、新たな読書活動のモデルなどを構築するため、読書活動推進モデル事業を実施する。〈委託事業：教育委員会等〉

＜取組内容＞

①発達段階などに応じた読書活動推進事業

次期「子供の読書活動に関する基本的な計画」を踏まえた、紙とデジタルの特性を活かした読書活動の先導的な取組や、発達段階や多様なニーズに対応した効果的な取組を行う。

（委託先：2箇所（小・中・高等学校等、公立図書館））

②学校図書館図書の購入促進事業

新学習指導要領を踏まえた学校図書館を活用した授業を進めるため、新しいトピックに関連する書籍（感染症、SDGsなど）、新聞、優良図書及び授業に必要な基本図書の整備状況などを再点検し、計画的な図書の更新を定めた図書整備計画の策定やコミュニティ・スクール及び地域の図書館・ボランティア等との連携した図書館資料を活用したモデル授業の実施など学校図書館図書の購入促進に向けた取組を行う。

（委託先：2箇所（小学校、中学校））



司書教諭講習の実施 21,431千円

学校図書館法に基づき、学校図書館の専門的職務を掌る「学校図書館司書教諭」の養成のため、全国教育機関が講習を実施するための経費を措置する。〈委託事業：大学及び教育委員会（47箇所）〉

「子ども読書の日」（4月23日）の理解推進 4,910千円

国民の間に広く子供の読書活動について関心と理解を深めるために、「子ども読書の日」（4月23日）を広く周知するとともに、特色ある優れた取組を行っている民間団体等を表彰する。〈直轄事業〉

読書活動の推進等に関する調査研究 11,699千円

- ①次期子供読書基本計画を踏まえ、子供の読書活動の実態把握など今後の施策の基礎資料を得るための調査分析等を行う。
- ②図書館資料のメール送信サービスが可能となる著作権法改正への対応等の図書館におけるデジタル化やDXを推進するため、図書館における実務的な課題やその対応方策を策定するための実証的な調査研究を行う。（課題解決型調査研究）〈委託事業（2箇所）〉



アウトプット（活動目標）

子供の読書活動の新たな取組や理解推進の取組、学校図書館の活性化などにより、読書習慣の形成や読書への関心を高めるなど全国的な普及を図る。

アウトカム（成果目標）

子供の不読率の改善など自主的な読書活動の増加や学校図書館の図書資料の購入冊数の増加など学校図書館の全国的な整備の拡大

インパクト（国民・社会への影響）

「子ども読書活動推進法」の理念である子供たちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける。

社会教育デジタル活用等推進事業

令和5年度予算額（案）

49百万円
（新規）



背景・課題

急速なデジタル化の進展の一方で、社会教育分野におけるデジタル活用の遅れが顕在化している。

公民館・図書館等の社会教育施設がデジタル技術を効果的に活用し、「リアル」と「デジタル」を組み合わせた効果的な社会教育活動が展開されることにより、地域づくりの拠点としての機能が一層強化され、デジタルデバイドの解消を始めとした社会的包摂に寄与するなど、地域の教育力の向上につながる。

また、社会教育施設の新たな活用モデルを形成し、デジタル田園都市国家構想の推進力とするため、PPP/PFIの活用を促進させる必要がある。

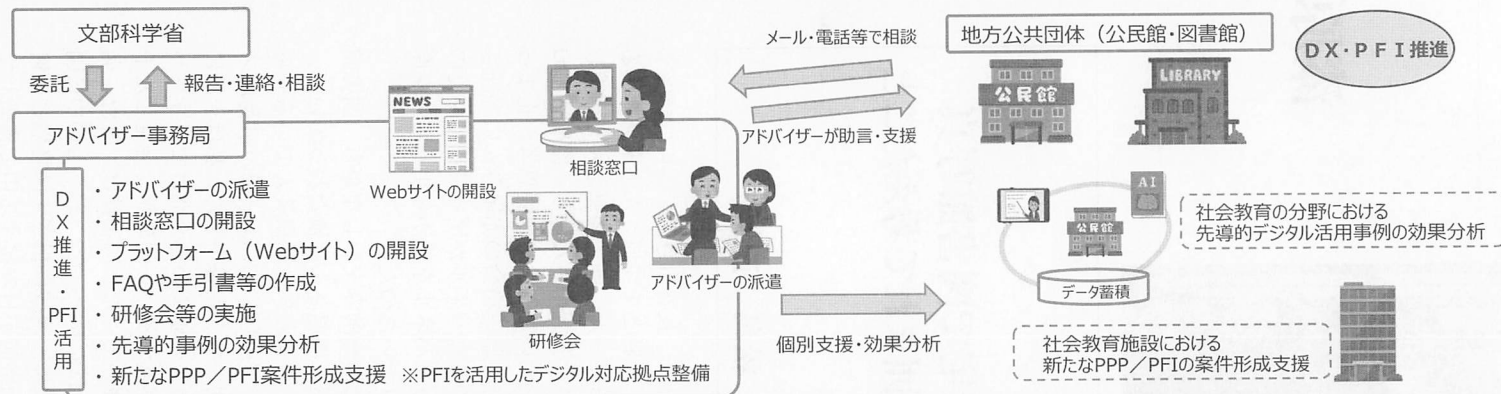
骨太の方針2022（令和4年6月7日閣議決定）

○経済社会の活力を支える教育・研究活動の推進
公民館等の社会教育施設の活用促進により、地域の人材育成力の強化を図る。
○PPP／PFIの活用等による官民連携の推進
デジタル田園都市国家構想の推進力として活用し、地域交流の場である公園・公民館等の身近な施設への新しい活用モデルを形成する。

事業内容

○ 社会教育施設（公民館・図書館）のデジタル機能強化・PFI活用アドバイザー事業

全国の社会教育施設（公民館・図書館等）におけるデジタル環境の整備や効果的な活用、施設の整備や運営におけるPPP/PFIの活用を一層促進するため、全国をカバーする支援体制を構築し、自治体等からの相談対応、アドバイザー（専門家）派遣、情報交換プラットフォーム（Webサイト）の開設等による伴走支援を行う。



アウトプット（活動目標）

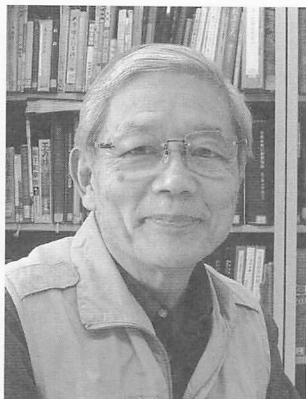
- ・アドバイザー事務局を設置し、デジタル化等にかかる伴走支援の実施
- ・PPP／PFIの案件形成支援の実施

アウトカム（成果目標）

- ・デジタル活用を行う社会教育施設の増加
- ・PPP／PFIを活用する社会教育施設の増加

インパクト（国民・社会への影響）、目指すべき姿

- ・地域コミュニティの維持・強化、地域教育力の向上
- ・デジタルデバイドの解消、デジタルリテラシーの向上
- ・官民連携の推進による民間の事業機会の創出、公的負担の軽減、効率的、効果的な住民サービスの提供



漆原宏さんを偲んで

漆原宏宅で図書館写真 パネルに囲まれて考えたこと

松島 茂

昨年、9月15日は、長谷川さん（日本図書館協会出版委員会委員長）と私とで漆原さん宅を訪問する約束をしていた日だった。朝、漆原さんを介護し寄り添ってこられた美智子さんから、漆原さんの訃報の電話をいただいた時は、一瞬思考が止まった。香川県子ども文庫連絡会の赤尾さんに寄託されていた図書館の写真パネルが戻って来ていたので、その日は、写真パネルを箱から出して、漆原さんと見るつもりでいたのだ。

図書館の仲間と酒を酌み交わしながら、図書館を語り合った部屋に漆原さんは横たわっていた。何時もそうしていたように少し微笑んでいる安らかな顔だった。写真パネルは一階の事務所スペースにあると聞いて、長谷川さんと私は一階に降りて、写真パネルの頑丈な箱を開けた。写真パネルは80年代の写真が多い。図書館を発見した子どもたちの顔は輝いていた。図書館は、まだ、発展の端緒についたばかりだった。「暮らしの中に図書館を」を合言葉に、地域に根ざす図書館とは何かを、利用者と図書館が日々接する中で模索していた。漆原さんは、そんな様子をファインダー越

しに見ながら、民主主義の姿を見たようにも思い、思わず笑みが溢れたのかも知れない。

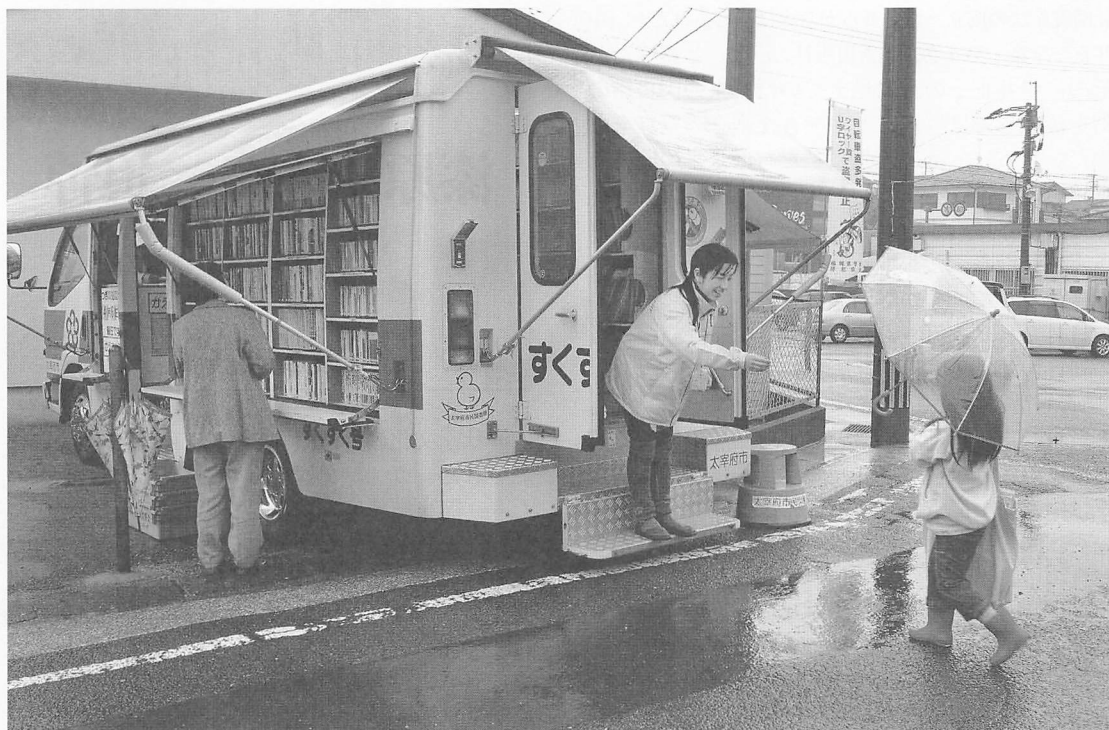
写真パネルを引き出して並べてみると、もう仕舞うのが惜しくなった。漆原さんがまだ傍にるように感じられるのだ。美智子さんもそう思われたのか、出したままでいいと言ってくださった。

告別の日の9月18日は雨のひどい日だった。私が着いた時、美智子さんは僧服を着ていらっしやう。読経を美智子さんに頼んでいたらしい。福岡県の柳川で僧侶をし地域の相談役でもあった美智子さんは、当然のように図書館づくり運動に加わり、漆原さんと知り合ったのだ。

写真パネルは美智子さんの手で壁に綺麗に並べられていた。落語家古今亭志ん朝や作家遠藤周作らの写真もある。写真家漆原さんの本業はこっちにあったのだ。

写真仲間の方が弔問にきた時、写真パネルをみて「どこに写真家が立っているかわかるね。」といていたという。そういう写真がいい写真なのだ。つまり、写真には図書館の子どもたちや本を選ぶ人々が写っているが、カメラを構えている漆原さんの立ち位置が自ずとわかるのだと。写真パネルを見ていて、漆原さんが傍に立っているように感じられたのはそういうことなのだ。写真の飾られた部屋の真ん中に漆原さんの棺があり、雨の中出棺していった。写真パネルに囲まれて、告別に来た数人の図書館仲間と私が残った。

2000年頃、当時出版委員会委員だった私は、ほるぷ出版の『地域に育つくらしの中の図書館』に変わる写真集を日本図書館協会から出したいと思っていた。論文も大事だが、見ただけで図書館がわかる、という本がもっと必要だと思ったからだ。しかし、漆原さんはなかなか首をたてにふら



©漆原宏

福岡・太宰府市民図書館

ない。私はほとんど困ってしまった。やっとOKが出たのは、カラーで写した写真で構成した写真集なら、ということだった。

漆原さんは『ぼくは、図書館がすき』の出版直前の2012年頃、ご自身で1980年代から2000年までに撮った写真をパネルにしたものを、図書館づくり運動の団体に無料で貸し出すことを考えていた。香川県子ども文庫連絡会の赤尾さんに寄託された2015年以降、漆原さんの写真パネルの貸出は全国に広まっている。写真パネルは1995年頃から制作され、3組のセットになっていた。

もう、漆原さんは待てなかったのかも知れない。図書館が欲しいと考えている人のところへすぐに写真が飛んでいって、写真にある以上の図書館を地域の人の力でつくって欲しかったのではないか。「図書館ができた時が始まる時」と言っていた漆原さん。図書館が地域の人々と手を携えて共に育つ社会、主権者が暮らしを楽しみ、学習し、知識を知恵に変えて地域の暮らしを豊かにしていく民主主義の社会を、漆原さんはどれだけ思い描いていたことだろう。

日本図書館協会から第2弾の漆原宏写真集『ぼくは、やっぱり図書館がすき』が出版されたのは2017年。出版委員会委員長の長谷川さんが、余分なものを削ぎ落として本質をみせるモノクロームの写真の力を見てもらいたいと、再び1980年代から2000年までの写真で構成したものだ。

80年代の写真に多数登場する墨田区立八広図書館の館長千葉治さんは、図書館は地域の人々と育つものと言っていた。全国の図書館を探訪した漆原さんは、未熟なこともたくさん目撃したに違いない。会報『香川県子ども文庫連絡会』に連載された「図書館取材紀行」を読んでみれば分かることだ。それでも、千葉さんのいう言葉に未来を信じていたに違いない。千葉さんは、図書館を語るのに国立国会図書館の初代副館長中井正一をたびたび引き合いにだした。中井正一は図書館法の成立を伸びゆく生ける芽として大きな期待を寄せつつ「円らな眼、紅い頬の村々の少年と少女の手に、よい本が送られて、たがいにひつつきあって喰い入るように読みあっている姿を、確かな幻として描くことができることは、深い楽しさである。」

（『図書館法の成立－燃えひろがる火は点ぜられた』：『中井正一全集・第4巻』美術出版社／所収）と述べた。その、中井正一の目に見えていた将来の図書館の幻を漆原さんは写すことができた唯一の写真家なのだ。さらに、その延長に私たちは未来の図書館を確実に思い描けるだろうか。漆原さんの残した、わたしたちに対する大きな課題だ。むろん、漆原さんが私たちに残してくれた写真遺産をどう引き継ぎ活かしていくかも問われている。

11月3日は漆原さんの四十九日だった。その日の朝日新聞の文化欄に漆原さんの紹介記事が出た。「図書館活写 民主主義の姿重ね」と大きな見出しと、日野市の移動図書館の写真と田無市にある家庭文庫の写真も掲載された。移動図書館と家庭文庫は図書館の原点だと漆原さんは日頃から言っていた。図書館が大切にすべきことは漆原さんの写真の中にあるのだ。

ひょっこりと、若い夫婦が写真を見に入ってきた。前のラーメン屋さんに来たら写真が並べてあるのが見えて興味を持ったという。美智子さんは会場にある茶席で抹茶を立てて接待した。写真を熱心に見た後「これからは図書館にもっと行こうと思います。」と元気に言って去っていった。

会場にはノートが置いてある。そこに訪れた人が感想を書いていく。やっと半年ほど経って自信を失っていた新米図書館員の感想もあった。休館日の今日、ふらりと蔵前のカフェに寄った後、漆原さんの魂に呼ばれるように会場に来たという。そこで、「写真を眺めていたら、図書館の本質という大切なことを気づかせていただきました。大感謝です。」とあった。

漆原さんの写真は、見る人に寄り添い、その人の言葉で図書館の本質を教えてくれるのだ。

（まつしま しげる：元墨田区立図書館）

漆原宏さん 追悼

庄野昭子

昨秋、文化の日に漆原宏さんのことが新聞に掲載された。カメラを構えるお姿や写真作品を眺めたり、記事を何度も読み返したり、お元気な頃の漆原さんと過ごせたようなひとときだった。また新聞のおかげで遠方の、漆原さんを知る仲間と電話やメール交換ができた。なかでも長年文庫を続けた98歳の方から「写真集に載った時はうれしく漆原さんには今も感謝。いつの間に撮ったのか、全然気付かなかったのよ」という葉書が届き、私も『ぼくは、図書館がすき』（日本図書館協会 2013）と『ぼくは、やっぱり図書館がすき』（同 2017）を久しぶりに手に取りゆっくり眺めた。

「香川県子ども文庫連絡会」（以下「文庫連」）は、文庫を開く人たちや子どもと読書に関心のある人たちが図書館を拠点に活動する集まりで、1982年に発足し、多岐にわたる40年を経て昨年6月に閉じた。発足時より松崎洋祐さんという中心的存在が担っていた会報誌づくりを、数年後に私がそのまま編集部として引き継いだのだった。

まさに同じ頃、文庫連は漆原さんの写真集に、そして翌年漆原さんご本人に出会うことになる。私の中では大きな出来事として刻まれている。

1980年代から90年代へ、香川県内でもぽつぽつ図書館の新設新館が増え、文庫連も熱い願いを勉強会や市民運動につなげていった。松崎さんが図書館でふと見つけた写真集『地域に育つくらしの中の図書館』（ほるぷ出版）に一目惚れしたのがそもその始まり。早速その1988年末に高松市の商店街の一角で開催した「くらしの中に生きる図書館～図書館の風景～漆原宏写真展」は驚くほどにぎわい、会場での多彩な出会いが文庫連の輪を広げ、会報読者もぐんっと増えたのだった。

漆原さんはのちに書いておられる。「第5回子ど

○漆原 宏（うるしばら ひろし）略歴

1939年4月2日 東京生まれ

1957年 都立蔵前工業高等学校電力科卒業

1957～68年 東京証券取引所勤務（その間、東京総合写真専門学校卒業）

1968～74年 （株）研光社勤務 『フォトアート』の編集などに従事する。

1974年 フリーの写真家となる。（人物写真、報道写真を中心に撮影）

1976年 森崎震二氏に誘われ、図書館を撮り始める。

これ以降、『市民の図書館 増補版』（1978年）、『図書館年鑑』（1982～2001年）、『子どもの豊かさを求めて』（1984年）など、日本図書館協会出版物に多くの作品が掲載される。

1980年 3館目の取材となった墨田区立八広図書館での千葉治館長との出会いが新たな図書館の発見となり、以後全国の図書館を本格的に撮影する。

1983年 『地域に育つくらしの中の図書館 漆原宏写真集』出版後、漆原氏作成の写真パネルが無料で貸し出され、写真展が全国各地で開催された。パネル貸し出しは現在も継続している。

1991年 9月から『図書館雑誌』の口絵に「漆原宏のフォト・ギャラリー」として写真を掲載、以後、2016年3月号まで毎号掲載

2015年 第17回図書館サポートフォーラム賞を受賞

2022年 9月15日 逝去 享年83歳

著書

1983年 『地域に育つくらしの中の図書館 漆原宏写真集』ほるぷ出版

1997年 『図書館づくり運動実践記 三つの報告と新・図書館づくり運動論』共著 緑風出版

2013年 『はくは、図書館がすき 漆原宏写真集』日本図書館協会

2017年 『はくは、やっぱり図書館がすき 漆原宏写真集』日本図書館協会

*漆原さんの写真を使った本

『これからの図書館運営のために：公立図書館の委託について考える』日本図書館協会 1994

『図書館のめざすもの』竹内愼 日本図書館協会 1997

『図書館のめざすもの』新版 竹内愼 日本図書館協会 2014

『未来の図書館のために』前川恒雄 夏葉社 2021

も文庫まつり…と大きく書かれた看板を背にした記念写真…私が高松の皆さんとお会いした最初で…集まった笑顔は仲間たちで…初めて見る大勢の男性がいた」と…。

そういえば当時、男性会員の多い香川の文庫連は全国的に珍しく、東京での「親子読書地域文庫全国連絡会」の集会では注目を浴びたものだ。視野と門戸が広いところ、男性陣がササッと動きパキッと発言するところなど、漆原さんにとって居心地がよかったのだと思う。

漆原さんに「図書館取材紀行」を文庫連の会報誌へ連載していただいたのは2003年5月号から2016年11月号まで、全151ページにわたる。漆原さんの

写真は、私たちに図書館の持つ魅力を大いに膨らませた。また連載原稿の方では、図書館のあり方とさらなる可能性を問いつける内容で、ちょっと辛口…いや、かなりの厳しさと、それから漆原さん特有の大らかな優しさとの絶妙なバランスで筆を進められた。

「文庫関係の会報誌では香川が日本一だよ、続けなきゃダメだよ」と、お会いする度に励ましてくださった。漆原さんのお声やまなざしが、今この時もますます胸にあたたかい。

漆原さん、本当にありがとうございました。

（しょうの あきこ：元「香川県子ども文庫連絡会」
会報編集部、「高松こどもの本の会」代表）

漆原宏の膨大な 図書館写真資料について！

漆原美智子

漆原宏写真パネル全点が皆様を迎えて、見る人の心に語り掛けている。

彼の晩年の闘病記にも、少し付き合ってほしい。

2013年、奈良の図書館撮影後体調を崩してペースメーカーを付けた。

その後、佐渡の図書館を撮影、島の地形は複雑で、校区ごとの図書館は絶対必要だね！と地元の方々と語り合う（千石船を復元した熱意をもう一度）。好きな酒をぐっと我慢している彼がいる。

2014年11月8日、当別ライブラリーファンに呼ばれて、写真展示とスライドを使って講演「図書館が<はじまる>日」を開催する。いつもより滑舌が落ちている。

講演後、高齢の男性から声をかけられ「早く、図書館の重要性に気が付けばよかった…」と、今は財政難なのだそう。

その後、名古屋への撮影とどうにか進んでいると思っていたが、彼は身体の異変に気が付き検査を受けた。「脊髄小脳変性症」。病名がつくと一気に気持ちも弱っていくのがわかる。

岐阜での撮影が最後になった。

松岡要氏に「漆原さんほど全国の図書館を回った人はいないと思う。資料を送るから、県ごとにまとめてみませんか？」と言われ、全国の図書館名が載っている資料を眺めていた。

もう、その時・彼はパソコンの操作ができなくなっていた。ただ眺めるだけで、ふがいなく思っていたに違いない。

そんな時に、図書館サポートフォーラム賞で彼の長年の思いが評価され嬉しく思う。

今の医学に助けられ、訪問医療、訪問看護、訪問リハビリの方々に支えられる生活になり、空きの1階を「寺子屋落語」の練習の場に使っていた

だくことになり、練習が始まると彼は聞き耳をたて、「まだまだだな」とつぶやく。彼は落語家の写真を撮っている。一番話がのっている瞬間をとらえるために、何度も足を運んだのだろう。

例えば、クラシックの撮影となればどの楽器の出番か知らないと話にならないそうだ。

文芸家から絵のモデルまで、頼まれれば撮り続けていた。彼の話は尽きない。

訪問医療の先生は、難病専門の先生で「生きる喜び」を感じないと力は発揮できないと、初見の診察でボランティアさんを区に要請。そんな先生なのでマスコミもマークしておられ、すぐ宏とボランティアさんの取材に入る。

そんな時に、「妙高市の図書館とともに歩む会」代表・馬場さんより写真展示の話が舞い込み、展示会場に本人を連れていくことができた（自分の写真の前で男泣きをする）。その様子がYouTubeに流れ、またパネルの旅がつづきチラシを見ては嬉しそうにながめている。

この度、朝日新聞（2022年11月3日朝刊）で取り上げていただいたように「図書館活写 民主主義の姿重ね」「知恵と人と出会いつながる場所」を、彼は1970年代から身体が動かなくなるまで撮り続けていた。人との出会いが続き、その膨大な資料が彼の暗室に眠っている。

その資料を、彼は一緒に図書館撮影に同行した私に任せる！と言って宿題を残していった。凄いことだ。唯々その資料の多さに手が付けられないでいる。フィルム時代の資料を目前にしてSOSを出すしかない。この資料は各図書館の歴史資料でもある。ぜひデジタル化して撮影された図書館で活かしていただきたいと切に思う。

漆原宏 図書館写真パネル展示は、今年1月15日まで自宅で開催していました。ぜひ、この機会に触れていただき未来の図書館につなげていてもらいたいと願いながら。

彼は、この写真パネルに見送られて千葉治さん、大澤正雄さん、伊藤峻さん、野瀬里久子さんたちの世界に旅立ちました。皆さんに感謝をのこして。

（うるしばら みちこ：東京都在住）

* * *

[NDC10：740.28 BSH：漆原宏]

図書館員の本棚

調べ物に役立つ図書館のデータベース

小曾川真貴著

東京：勉誠出版（発売）

2022. x, 200p : 19cm

（ライブラリーぶっくす）

ISBN : 978-4-585-30006-9 : ￥1,800（税別）

NDC10 : 007.58 : 015

BSH : 情報検索 ; 図書館利用 ; 文献検索 ; オンライン目録

本書では、図書館の基本的なデータベース（以下、DB）をわかりやすく紹介しつつも、運営者へのインタビューではDBを支える裏側の人々の情熱も伝えてくれる。「調べ物に役立つ」とあるが、図書館員個人の学びの為だけでなく、図書館の未来のためにも役立つ一冊になりうると感じた。それは図書館界がDB導入を加速できるか否かにかかっている。

私事で恐縮だが、2022年に10年勤めた図書館を移った。有料DBがない図書館から来た私に、認定司書の先輩が渡してくれたのが本書だ。著者の小曾川氏は愛知県犬山市立図書館の職員を務めつつ、さまざまな図書館コミュニティに参加し、大橋崇行著『司書のお仕事』シリーズ（勉誠出版）の監修も行い、大学の非常勤講師としても教鞭をとる。その活躍ぶりの中、いま本書を出版する狙いはなんだろうか。

実際に有料DBを利用できる環境になり本書を読んだことで、図書館がその専門性を持つためにDBが必須だと再認識できた。レファレンスを受け、自館所蔵本で探すも何もヒットしないとき、一般的なことであれば新聞や雑誌DB、ビジネスであれば日経テレコン等と、主題に合わせたDBを検索すれば何かしらはヒットする。本にまとまる前の最新の情報や、一冊の主題になるほどで

はないニッチなキーワードはここで拾える。図書館の「情報が古い、遅い」イメージを払拭する有効なツールになる。

しかし私の前の職場のように、有料DBがない図書館も珍しくはない。図書館の基本資料（とあえて言おう）と考えられているかどうか。2019年の社会教育調査を見ると「図書館におけるコンピュータ導入状況」の外部DBは、図書館数3,360に対し、1,455で43.3%、まだ半数に届かない。著者が「はじめに」で述べるように、DBはいつかサービスが終了し、何も残らない可能性がある。それゆえ導入が躊躇される面もあるが、話は逆で、そうならないために一定の導入を維持しDBを支えることこそが必要だ。出版社や書店はもちろん、DBなしの図書館も考えられないという認識を持てているか。感染症下で電子書籍の導入が飛躍的に進むが、DB導入数は伸ばせているか？詳細な調査がなされてほしい。電子書籍も大切だが、中身については図書館の所蔵本と変わらない。対してDBは他で代えることができない。DBなしでは検索に必要な時間は雲泥の差というより、データの海に太刀打ちできないと言い切ってしまうていいだろう。

本書に出てくるDBをざっと確認しよう（一部略称はテスト/クイズだと



思ってほしい）。探し方を探すリサーチナビから、図書館OPAC（F、N、K社）、カーリル。マニアックなどところではJcrossにディーブ・ライブラリープロジェクト。記事索引で新聞／ELDB／Web OYA-bunko。無料で使えるものとしてNDL／CiNii／Google Scholar／J-STAGE／JDreamⅢ。当館でも未加入でまだ触れていないざっさくプラス／MagazinePlus。法令・行政情報が日本法令検索／e-Gov／裁判例検索／D1-Law／e-Stat／J-DAC／インターネット版官報。事典類としてコトバンク／ジャパナレッジ／ブリタニカ・オンライン・ジャパン。その他としてJAPAN SEARCH／e 国宝／文化遺産オンライン／Cultural Japan／ヨーロッパナ／DPLA。日頃どのくらい使いこなせているだろうか。本稿欄まで目を通す優秀な図書館員の点数が気になる。

最後に、著者はこれらのツールを使いこなして何を研究していたのだろうか。著者略歴を見ると、論文に「やおい、JUNE、BL、そして腐女子：腐文化研究事始め」とある。早速本書の内容を参考にこの論文を探してほしい。その秀逸さはこのユニークなタイトルが認定司書の論文でもあることで証明されている。

（推名拓朗：市原市立中央図書館）



お宝紹介!

第228回

名城大学附属図書館

加藤平左エ門文庫について

難波輝吉

1. 名城大学附属図書館の概要

名城大学附属図書館は、1950年4月に駒方校舎（現 名古屋市昭和区駒方町）に開館しました。開館当時は、学内に散在していた図書資料を少しずつ集めて登録・提供するというように、細々と図書館を運営していました。当時の蔵書数は、約17,000冊。図書館と称するものの、木造2階建て講堂の階下を実習工場や食堂と分け合い、閲覧室と書庫と事務室のみといった環境でした。それから72年、現在、名城大学附属図書館は3キャンパス（天白キャンパス、八事キャンパス、ナゴヤドーム前キャンパス）3館体制で運営され、蔵書数約1,220,000冊の環境を整えて学生・教職員の教育研究活動を支えています。その中から今回は、本学の起源に関連する“数学”分野の蔵書である「加藤平左エ門文庫」についてご紹介いたします。

2. 加藤平左エ門文庫について

加藤平左エ門先生は、1891年に愛知県に生まれました。草創期の東北帝国大学で数学を学び、台湾大学教授などを歴任、1949年に黎明期の名城大学に理工学部教授として着任し、数学の教育指導とともに「和算の近代西欧数学的解説者」として活躍されました。

「加藤平左エ門文庫」は、1999年11月に加藤先生のご遺族から、加藤先生が所有されていた和算本約200点（683冊）の寄贈を受け、附属図書館内に創設しました。文庫のコレクションには、加藤先生が執筆された『和算ノ研究 行列式及圓理』などのほか、日本における数学研究を高めた関孝和の遺編、関の弟子の建部賢弘や荒木村英の著書など

が収められています。

3. 和算とは

和算とは、江戸時代以前に日本で独自に発達した数学のことです。明治以降、学校教育で西洋数学が教えられるようになると教育現場から消えてしまいましたが、和算は西洋数学と比べても、決して見劣りしない優れたものでした。ねずみ算や鶴亀算から、連立方程式、円周率、三角関数をはじめとする代数・幾何の高度な問題まで、和算はさまざまな数学問題を取り扱いました。実用的で暮らしに直接役立つ知識として重視され、武家社会のみならず庶民の間でも普及し、江戸時代の社会の発展に大きな役割を果たしました。和算関係の書物も数多く出版されており、そのいくつかを加藤平左エ門文庫の中からご紹介します。

4. 蔵書紹介

(1) 『古今算法記』 沢口一之著／1671年刊

和算は中国の数学を吸収して発展しました。大きな影響を受けた算書として、豊臣秀吉の朝鮮出兵を機に日本にもたらされた『算學啓蒙』があげられます。これにより、算木と算盤を使った代数「天元術」が入ってきました。

沢口一之の『古今算法記』は、天元術を正しく用いて解いた最初

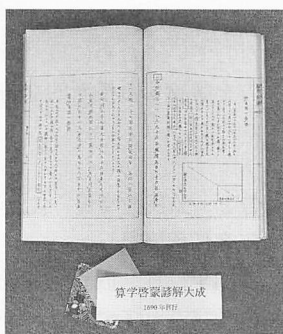


の書物とされています。この書は7巻から成り、3巻で『改算記』の、4～6巻で『算法根源記』の遺題（解答をつけず後世の学者に解を求めさせるリレー式の問答）を解いています。そして7巻では新たに沢口自身の遺題を遺しています。この遺題は天元術で解くのは困難とされていましたが、関孝和が新たな「演段術」を創案して解き、『發微算法』で公表しました。

(2)『算學啓蒙諺解大成』建部賢弘著／1690年刊

先述の『算學啓蒙』には、式の立て方は書かれているものの、その解き方が書かれていませんでした。そのため、訳書や注釈書が刊行されたものの、どちらも天元術の内容を本当に理解したものではありませんでした。

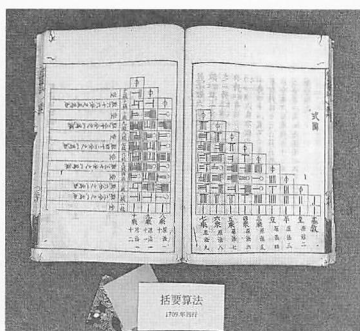
関孝和の弟子の建部賢弘は、これに正確でわかりやすい注をつけ、原著のほぼ倍の量になる『算學啓蒙諺解大成』を刊行しました。諺解とは口語訳という意味であり、漢文で書かれたテキストを訓読するだけでなく、こなれた和文で読み解いています。



(3)『括要算法』関孝和遺編，荒木村英検閲，大高由昌校訂／1712年刊

関孝和の弟子荒木村英が、関の没後に遺稿を整理し出版したものです。

「不定方程式、正多角形の辺と対角線の関係式、級数の和、ベルヌーイ数、近似分数、外挿法、円および球の求積などが述べられています。『本書により、関の業績が広く知られるようになりました』¹⁾。



(4)『和算ノ研究 方程式論』加藤平左エ門著／2011年刊

この本は、加藤平左エ門先生ご自身が書かれた、和算史の入門書です。関孝和による「点竄（てん

ざん）術」成立の詳細や、彼の方程式論の卓越性について簡明に記述されています。先にも触れたように、関孝和は天元術を発展させ、演段術を考案しました。また、算木では表しきれない数式を、筆算を用いて表現した独自の記号法「傍書法」を創案しました。そしてこの傍書法がのちに点竄術と呼ばれるようになります。これにより各種の代数方程式が解けるようになり、和算の発達に大きな影響を与えました。

5. おわりに

本学における数学教育の歴史は、中等学校教員養成を目的に設置された名古屋高等理工科学学校の夜間部高等科まで遡ります。現代は、データサイエンス・AIという言葉が社会に定着し、その素養を持った人材育成が強く求められる時代になっています。数学、計算機科学などの研究領域との関わりがとて強く、日常生活や仕事においても活用されるので、自然科学を学ぶ者だけでなく、人文・社会科学を学ぶ者にとっても、数学を学ぶ重要性は更に高まっています。

今回紹介した加藤平左エ門文庫は、大変貴重な成果を含んでいます。その成果を多くの方々に公開できるよう、本学数学科において関連書籍を出版する方向で検討を進めています。先人の築いた和算の研究成果は、最先端の数学にもつながり、人類社会の発展に寄与する重要なもので、本学の他に類のない特色ある教育・研究の一つとして発信していきます。

【注】

1)『世界大百科事典』1988年版 平凡社 p.446 かつようさん ぼう【括要算法】の解説から引用

【参考文献等】

- 国立国会図書館 電子展示会「江戸の数学」
<https://www.ndl.go.jp/math/introduction.html> (2022年10月11日閲覧)
- 和算の館 電子復刻 古今算法記（沢口一之）
<http://www.wasan.jp/kokon/kokon.html> (2022年10月11日閲覧)
- 長田直樹.『發微算法』と傍書法－関孝和はいづ傍書法を創案したか－.『アリーナ』2018. Vol.21 p.65-76
(なんば きよし：名城大学附属図書館)
[NDC10：090 BSH：1.稀書 2.名城大学附属図書館]

非正規雇用職員セミナー

「社会教育施設で働く非正規雇用職員」報告

☆☆☆

永見弘美

11月28日、日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会主催セミナー「社会教育施設で働く非正規雇用職員」がオンライン形式で開催された。

当委員会ではこれまで非正規雇用職員の権利や会計年度任用職員制度など図書館の雇用問題についてセミナーを開催してきた。今年度は図書館だけでなく他の社会教育施設に対象を広げ、博物館、公民館からも専門職として勤務されている方々をお招きして、各施設の非正規雇用職員の現状を知るとともに専門性の維持など共通の課題について意見交換を行った。

報告に先立ち、当委員会小形亮委員長が2021年度文部科学省社会教育調査から博物館、公民館、図書館の職員構成について解説し、各施設の非正規雇用職員率（全職員における非常勤+指定管理者の職員の割合）は、博物館62.4%、公民館80.5%、図書館74.7%といずれも高いことが示された。

報告1 北海道浦幌町立博物館学芸員 持田誠氏
（長く非正規雇用職員として勤務された後、2021年より正規職員）

ご自身の経験を踏まえ学芸員の業務、博物館の定義についての説明に続き、博物館調査から設置数は公立以外に私立も多く、さらに博物館法規定外の類似施設（学芸員配置が任意）が圧倒的に多いこと。そのため正確な施設数が不明で、有資格者や雇用形態等、人的な実態把握が大変難しいこと。発令によって「学芸員」となるため、発令外の有資格者や博物館にいない学芸員は統計から漏れる場合が多いこと。また、展示解説員、ミュージアムライブラリアンなど、学芸員以外の非正規職員も多数存在することなど博物館特有の問題につい

て述べられた。

さらに、高度なスキルを求められる一方、発令も受けられず、研究職か事務職か立場も曖昧な非正規雇用職員は高学歴ワーキングプアの温床となっている。100年後に資料を残す使命を博物館が果たしていくためには、学芸員という専門職の在り方を議論する横断的な組織が必要であると強調された。

報告2 公民館職員 佐藤真理子氏（仮名）（会計年度任用職員）

2013年に社会教育主事任用資格を取得後、公民館に勤務されている立場からお話いただいた。社会教育主事も学芸員と同様に、発令が必須だが採用は少なく、実務経験が豊富な有資格者でも名乗ることができない現状がある。2020年度からは社会教育主事講習・養成課程の改善により、「社会教育士」という、修得後に称号を名乗ることができる制度ができた。発令によらなくてもこれまでの専門性を活かし、長期的な地域活動支援を続けるため、現在受講している。公民館は自治体によって運営形態の違いがあり、非正規雇用職員の募集要件資格もさまざま。そのため一般論として語ることは難しいが、個人の実態を例として、非正規率が非常に高い職場において主体的に業務に携わっている状況と課題が報告された。会計年度任用職員制度導入時には、非正規雇用職員のほとんどが労働組合員であったことから、基本給、定数、再度任用年数を維持することができた。最後に、図書館の自由に関する宣言を挙げ、学ぶ自由を損なう事例には非正規雇用職員であっても、正規職員と対等に話し合える環境を望むと述べられ

た。

報告3 荒川区立ゆいの森あらかわ図書専門員 大場康智氏（会計年度任用職員）

当委員会メンバーの観点から、日本図書館協会統計、文部科学省社会教育調査、非正規雇用職員に関する実態調査を取り上げ、図書館の状況について報告があった。図書館の増加とともに、非正規雇用職員が増加していること。有資格者の割合が高く業務が基幹化していること。仕事に対しやりがいを感じている一方、待遇やキャリア面で不満を感じていること等の結果が解説された。2020年度に導入された会計年度任用職員制度について、当初期待された雇用条件の改善について、一部の自治体では制度導入のためむしろ改悪となった事実がある。荒川区では、図書館員の労働組合によって要求を勝ち取ることができたという実感を持って、労働組合の必要性を語られた。また、2022年1月、当委員会が「会計年度任用職員に関する提言」を作成し、今後の制度改善と改革に向けて呼びかけたことを紹介した。

セミナー後半は小形委員長が司会を務め、全員でディスカッションを行った。これまで他施設の職場環境を知ることはほとんど無かったため、大変貴重な機会になった。共通の課題が多いことに気付いたという感想があった。社会教育施設という性質から、長期的に地域や資料と関わり経験を蓄積することが重要だが、それを最前線で担っているのが非正規雇用職員であること。民営化ではさらに短期間になり、経験や実績が継承されないこと。専門職を養成しても採用がないというアンバランスから生じる影響等について、それぞれの立場から意見を述べられた。佐藤氏からは、正規職員は異動してしまうので、長く実践現場にしようとする非正規になってしまうとの発言もあった。持田氏は、非正規が社会教育を担っている現状が、将来的に日本の社会教育にどのような結果をもたらすのかという観点から、正規職員が自身の問題であると認識を改めるような展開にしなければならない。課題解決のためには労働実態を可視化し、組織的な連携から労働運動、社会運

動に拡大することの必要性を指摘された。

今回のセミナーでは、短い時間でもあり、課題の一部が明らかになったに過ぎないが、少なくとも互いの状況を「知る」ことはできた。非正規雇用職員が担っている社会教育の将来を考えると、私たちが担っていると同時に、受け手として直接影響を受けるのも事実である。それぞれの所属とは別に、社会教育施設という大きな枠組みでの活動が今後は必要となると実感した。博物館、公民館においても、資格を持った非正規雇用職員が高い専門性を持って業務に当たっている実態を伺って、同様に働いている身近な人たちの顔が浮かんできた。そして、図書館司書の専門性について改めて考えさせられる機会となった。

テーマを社会教育施設と広くし、持田氏、佐藤氏にもお声掛けいただいた結果、今回は図書館以外に博物館、公民館各関係の方、また、議員、労働組合、社会教育関連団体など多様な方にご参加いただくことができた。チャットでの質問や発言、情報提供も活発に行われ、今回のセミナーを開催した意味があったと思う。

参考ホームページ

- 非正規雇用職員セミナー「社会教育施設で働く非正規雇用職員」レジュメ（日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会）
<https://www.jla.or.jp/committees/tabid/805/Default.aspx>
- 2021年度社会教育調査
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400004&tstat=000001017254>
- 社会教育士（文部科学省ホームページ）
https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/mext_00667.html
- 公共図書館における非正規雇用職員に関する実態調査
https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/seisakukikaku/cousakekka_20100608%202.pdf
- 会計年度任用職員に関する提言（日本図書館協会ホームページ）
<https://www.jla.or.jp/demand/tabid/78/Default.aspx?itemid=6172>

（ながみ ひろみ：JLA 非正規雇用職員に関する委員会）
[NDC10：013.1 BSH：1. 図書館員 2. 社会教育施設]

図書館員のおすすめ本⑦4

徳政令 中世の法と慣習

笠松宏至[著] 講談社(講談社学術文庫) 2022 ¥1,000 (税別)

「永仁の徳政令」は学校で習ったと記憶している方も多いはずだ。永仁5(1297)年に鎌倉幕府から出された法令で、最も有名な条文の一部を要約すると「御家人(幕府と主従関係を結んだ者)が立法時点以前に売却した土地は本主(売却した御家人)に無償で返還させる」というものだ。

当時は立法の事実を人々に周知する制度が無かったにもかかわらず、この法令は異例な速さで全国に知れ渡ったという。それは何故か。本書はこの疑問を出発点に永仁の徳政令を取りまく中世社会について、その「社会的環境の実態を、いくらかでも解明しよう」(p.42)と書かれた本である。

実はこの法令自体に「徳政」の言葉は出てこない。しかし御家人だけが得をする法令にもかかわらず、人々はこれを「仁徳ある政治」という意味の「徳政」と呼んだ。著者はこの一見ちぐはぐな通称に、中世の人の「もの」の所有に関する考え方という視点から、目が覚めるような鋭い考察で切り込んでゆく。中世徳政の本質を指摘する本書の山場の一つである。さらに著者は永仁の徳政令以前の法令や社会状況を考察し、この徳政令が出るに至った経緯を辿ってゆく。現代とは全く異なる裁判制度や民衆の慣習法も取り上げられており、新鮮な驚きとともに中世社会を知ることができる。

歴史に思いを馳せるとき、昔の人も私たちと同じように物事を考えていたと思いがちだ。しかし本書は「法」を通して、700年以上前の中世人と現代人の考え方の違い、その一端を鮮やかに描き出している。

原本は1983年刊の岩波新書で、本書の解説によると品切れの時期も長くあったようだ。私は歴史学を学んでいた大学生のとき教授から手渡され、夢中で読んだ。学問としての歴史の面白さに目覚めさせてくれた思い出深い一冊である。この文庫化を機に、再び多くの人の手に届いてほしい。

こばやしひろり
(小林沙織: 福島県立相馬高等学校)

化石の復元、承ります。古生物復元師たちのおしごと

木村由莉監修 ブックマン社 2022 ¥2,000 (税別)

レストランなら調理場、図書館なら書庫など、利用者が入ることができないバックヤードが好きな。博物館、美術館などの展覧会では展示そのもの以上に、収蔵品の管理や展覧会がどのように企画運営されているのかに関心がある。なので、2022年開催の国立科学博物館特別展「化石ハンター展」の展示作成現場に立ち会わせてくれる本書をワクワクしながら読んだ。

展覧会を監修する古生物学者には熱い思いがある。ロマンあふれる化石発掘をテーマに胸躍る展示を作りたい。哺乳類が氷河時代の厳しい寒さに慣れ、進化した鍵はチベット高原にあるという発掘が生んだ新説を紹介したい。そのために目玉となる展示が欲しい。そこで、新説を裏付けた太古のサイ「チベットケサイ」の骨格レプリカと生体模型を復元してゆく。古生物の復元には、本書副題の「古生物復元師」という単独の職業はなく、3DCGクリエイターや模型職人など各分野の多様なプロフェッショナルたちが集結する。そのプロたちの学術的根拠に基づく設計や造形の職人技など、各々のこだわりの結晶がパトンプスされ骨格や生体として形になってゆく過程に興奮した。

古生物の復元ばかりでなく、展示プランナーや空間デザイナー、博物館企画展示担当者、主催者など展覧会を企画運営する側の仕事にも光を当てている。今回の展覧会は、展示プランナーがアイデアノートに2007年にメモした構想が、数多の協力を経て2022年に実現したものだという。

本書は、恐竜や古生物が好きで携わりたい人に、研究者以外にもその分野に関わる多くの魅力的な仕事があることを教えてくれる。最後のコラムで紹介される「書籍編集」もその一つだ。本書担当編集が手がけた『もがいて、もがいて、古生物学者!!』(同 2020)もまた、読者に古生物研究のリアルとその豊かな世界を届けてくれるだろう。

ふじもとしょういち
(藤本昌一: 名古屋市港図書館)

図書館員のおすすめ本⑦4

歌うま本 上手くなるのは意外と簡単だ

いくみ著 実業之日本社 2022 ¥1,300 (税別)

ある放課後、ふらりとやってきた彼女。長椅子に腰かけて手持ち無沙汰な様子。「待ち合わせ？」と声をかけると「う～ん、約束はしていないけど、誰かいるかと思って」。

ちょうど図書部が『折り鶴クラフト』（森本美和著 講談社 2020）を参考にして来館者参加型の折り鶴アート企画を始めたところだったので、「鶴、折ってみる？」と誘うと、「え、折ったことないけど出来るかなあ」「じゃあ一緒に折ろうか」と、しばし折り紙タイムとなった。

軽音部の練習をBGMに手を動かしながら、「…このごろ時々『マリーゴールド』歌ってるのが聞こえてきて、私あいまよん好きだから嬉しいんだ」と話すと、目を丸くして「うわっ、それ、私!」。そこで「そうだったんだ! ちょうど、いい本あるよ」と出したのが『歌うま本』。

人気の20曲の歌い方のコツがオールカラーで見やすく載っており、QRコードから動画も視聴できる。鶴を折り終えた彼女に渡すと、「わあ、すごい良さそう～、私、ここ、こぼし入れてなかった…」と熱心にページをめくる。「他のものいろいろ歌うよ、Adoとかも…あ、それもある!」。そして「…私、本借りるの初めて」と少しためらったあと、それでも結局、本を抱いて帰った。

この種の本は、呼吸や姿勢など基本技術は変わらなくても、曲が古くなると寿命が尽きてしまう。でも逆に選曲が良ければ利用されやすい。この本はヒット曲ごとに写真入りで歌唱テクニックが解説されていて、難しい練習は抜きですぐに使える。YouTuberの本だが、編集後記によると動画は全てフルコーラス撮り下ろし。

彼女は後日、友達と一緒に来館し、「ねえ、この前、司書さんと鶴折ったんだ～」と、今度は友達に教えながら折っていた。きっと歌のほうも上達するに違いない。

よこやまみちこ (横山道子：神奈川県立藤沢工科高等学校)

古都鎌倉で30年間続いた! 伝説のビデオレンタル店から学ぶ遠隔経営術

田中博子著 セルバ出版 2022 ¥1,500 (税別)

私の生活圏では、ここ数年でレンタルビデオ店が急激に減ってしまった。同じ情報媒体を貸すサービス業なので、図書館員としてレンタルビデオ店の現状はどうか、多少なりとも気にはなっていた。

そんなときに、この本が新刊の情報を見ていて目に止まった。鎌倉にあった店舗のことも、著者のことも知らなかったが、読んでみることにした。

著者は、鎌倉の駅前で小さなレンタルビデオ店を30年間も経営してきた。業界で表彰されるほどの優良店舗だったが、田中氏は月に一度程度しか顔を出さない遠隔経営をしていたという。「なぜ、そんなことが可能なのか?」と誰しも思うが、その大きな理由はPOSの活用にあるという。POSとは会計のレジ機能に、商品や顧客のデータの収集・管理などの機能を付与したもので、コンビニなどでおなじみだ。データをどうやって駆使するのか、閉店したから書けることとして、数値をこう分析してこう使ったと、体験談を交えてわかりやすく説明している。素人目にも「ここまで書いて大丈夫?」という部分にまで踏み込んだ内容であった。

この店舗では商品を紹介するPOPの作成にも力を入れていた。「POPはこう書け!」というコラムから一部を紹介すると、なぜ貸し出しランキング上位に入っているのか、理由を書くと客の滞在時間は長くなり、客単価も上がったという。また、新商品に添えるPOPは、発注のときにメモを書いておくと、悩んで発注した熱い気持ちが思い出されてよいのだとか。

このような店舗がなぜ閉店せざるをえなかったのかも本書に書いてある。図書館員としても示唆に富む内容であった。

なかだちかし (高田高史：神奈川県立川崎図書館)

[NDC10：019.9 BSH：書評]



日図協図書館 新着案内

●配列と記載事項について

単行書：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は書名の欧文、数字、五十音順とした。

「タイトル 巻次 著者 出版社 出版年月 ページ数 大きさ（叢書名） 注記 ISBN 価格 NDC 記号」

要覧：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ」

館報：館種別、都道府県（県、政令指定都市・特別区、市、町村）順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月」

機関誌・団体報：館種、テーマによる NDC 記号順

「タイトル 巻次 編者・出版社 出版年月 ページ数 大きさ 注記 NDC 記号」

記事索引：『日本十進分類法』による分類記号順（NDC 記号順）とし、同一分類記号内は記事タイトルの欧文、数字、五十音順とした。

「記事タイトル 著者 掲載誌 巻号 掲載ページ 掲載年月」

図書館関係

図書・資料・記事目録



単行書 紀要掲載論文

報告書・資料集・論文集など

Net Advance 2000-2022 落合早苗編著 ネットアドバンス 2022.08 143p 21cm 非売品 007.35

私たちが図書館について知っている二、三の事柄 中村文孝著、小田光雄著 論創社 2022.08 ix, 304p 19cm 978-4-8460-2179-5 ¥2000 010

原爆文学研究 20 原爆文学研究会編集 花書院 2022.03 308p 21cm 978-4-86561-258-5 1200 010.1

エファジャパン年次報告書 2020 エファジャパン 2021.08 19p 30cm 010.2236

悼む 好世子 塩見昇編 塩見昇 2022.10 28p 26cm 010.4

私の出会った人・本・山 続 平川千宏著 日外アソシエーツ 2022.08 76p 21cm 978-4-8169-2937-3 非売品 010.4

第73回北日本図書館大会北海道大会・第62回北海道図書館大会記録集 令和4年度（2022年度）北海道図書館連絡会議（事務局：北海道図書館振興協議会） 2022.11 51p 30cm テーマ：縄文遺産から ICT へ～図書館がつなぐ時代、場所、人～ 期日：2022年6月8日-7月15日 オンライン開催 010.6

令和4年度北日本図書館連盟研究協議会 第46回秋田県図書館大会 記録 DVD 秋田県図書館協会 2022.12 ビデオディスク2枚（360分） 12cm 会期・会場：令和4年10月20日～21日、主催：北日本図書館連盟・秋田県教育委員会・秋田県図書館協会 010.6

司書職制度の再構築 日本の図書館職に求められる専門性 大城善盛著 日本評論社 2019.12 160p 22cm 978-4-535-58744-1 ¥4800 013.1

非正規雇用職員セミナー「図書館で働く女性非正規雇用職員」講演録 日本図書館協会非正規雇用職員に関する委員会編 日本図書館協会 2022.10 70p 21cm（JLA Booklet 12） 978-4-8204-2209-9 ¥1000 013.1

読書のバリアフリーQ&A 誰でも読める環境づくり 文字・活字文化推進機構 2020.12 19p 30cm 015.97

学校図書館支援センター年間報告 令和3年度 新潟市立中央図書館新潟市学校図書館支援センター編 新潟市立中央図書館新潟市学校図書館支援センター 2022.09 1冊 30cm 016.2141

森下芳則さん講演会「図書館の役割と市民との関係性」イクネスしばたサポータークラブ図書館部会図書館利用者友の会編集 イクネスしばたサポータークラブ図書館部会図書館利用者友の会 2022.06 42p 30cm（イクネスしばたサポータークラブ図書館部会図書館利用者友の会ブックレット 2） 2022年3月5日 講演記録 016.2141

学校図書館とマンガ 高橋恵美子著、笠川昭治著 日本図書館協会 2022.10 77p 21cm（JLA Booklet 11） 978-4-8204-2208-2 ¥1000 017

学校図書館を彩る切り絵かざり 2 CHIKU 著 少年写真新聞社 2021.07 87p 26cm 978-4-87981-739-6 ¥2000 017

笑う学校図書館 司書が見た高校生の日常 6 山田恵子文・イラスト がくとけん神奈川支部 2021.07 1

冊 15cm 19.9月号～21.7月号 ¥150 017.4
 笑う学校図書館 司書が見た高校生の日常 7 山田恵子
 文・イラスト がくとけん神奈川支部 2022.07 1
 冊 15cm 21.9月号～22.6月号 ¥150 017.4
 あなたにもできる読書ボランティア入門 家の光協会
 2020.05 29p 30cm 019.2
 第55回造本装幀コンクール公式パンフレット 出版文化
 産業振興財団 頒価¥1100 2022.09 58p 19cm コ
 ンクール公式冊子 022.5
 えんばわ 64 エファジャパン 2022.03 14p 21cm
 319
 学制百五十年史 文部科学省著 文部科学省 2022.09
 1137p 22cm 372.106
 自然史・理工系研究データの活用 井上透監修 中村寛
 責任編集 勉誠出版 2020.04 233p 21cm (デジ
 タルアーカイブ・ペーシックス 3) 978-4-585-
 20283-7 ¥2500 400
 図書館司書32人が選んだ犬の本棚 犬に寄り添い、犬を
 掘り起こす291冊 高野一枝編著 郵研社 2022.10
 255p 19cm 978-4-907126-55-1 ¥1800 645.6



要覧

年報・年史・業務報告・利用案内など

国立国会図書館年報 令和3年度 国立国会図書館 2022.
 10 168p 30cm

*

図書館要覧 令和4年版 草加市立中央図書館 2022.11
 42p 30cm

図書館要覧 令和4年度 松戸市立図書館 2022.11 45p
 30cm

神奈川の図書館 2022 神奈川県図書館協会 2022.10
 167p 30cm

横須賀の図書館 令和4年(2022年) 横須賀市立中央図
 書館 2022.10 52p 30cm

藤沢市図書館概要 令和4年度 藤沢市総合市民図書館
 2022.11 76p 30cm

らばーる2021 図書館年報 令和3年度実績 平塚市中央
 図書館 2022.10 47p 30cm

新潟県立図書館年報 令和4年度 新潟県立図書館 2022.
 08 48p 30cm

富山県の公共図書館 令和3年度 富山県立図書館 2022.
 09 72p 30cm

事業年報 2022年度 愛知芸術文化センター愛知県図書
 館 2022.10 69p 30cm

図書館年報 令和3年度 精華町立図書館 2022.10 26p
 30cm

堺市立図書館概要 令和4年度版 堺市立中央図書館
 2022.08 48p 30cm

吹田市の図書館活動 令和3年度(2021年度)統計 吹田
 市立中央図書館 2022.09 64p 30cm

交野市立図書館年報 令和3年度 交野市立図書館 2022.
 10 28p 30cm

福岡県公共図書館等概況 令和4年度 福岡県公共図書館
 等協議会 2022.09 76p 30cm

鹿児島県の公共図書館 令和4年(2022年)版 鹿児島県
 図書館協会 2022.10 48p 30cm



館報 協会報 機関誌

●日本図書館協会

図書館雑誌: The Library Journal 116(12) (通巻1189)

日本図書館協会図書館雑誌編集委員会 日本図書館
 協会 2022.12 92p [688-754p, 25p] 26cm 特集
 「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ、
 小特集 IFLA ダブリン大会レポート、課題解決支
 援サービスをめぐって(その3)(窓)、「耳をすませ
 ば」にみる貸出方式とリアル図書館の自由(こらむ図
 書館の自由)、GIGA スクール構想と学校図書館政
 策、情報教育と学校図書館の結びつき、県域で育む
 「情報活用能力」、「未来の学校図書館」、国立国会図
 書館デジタルコレクションの動向と学校における利
 活用、学校はいま、図書館の力を求めている、太洋
 中学校区子ども読書活動推進協議会(霞が関だより
 229)、学生とともに、ドタバタ・わくわくレファレ
 ンス 大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学附
 属図書館(れふあれんす三題噺 300)、「啓発する、
 関わる、可能にする、つなげる」図書館大会、IFLA
 理事会報告、IFLA ダブリン大会報告、アジア・オ
 セアニア地域部会活動報告、上野の森で60年!クラ
 シック音楽専門図書館 公益財団法人東京都歴史文
 化財団東京文化会館音楽資料室(小規模図書館奮戦
 記 その298)、「労働図書館」の特殊コレクション
 独立行政法人労働政策研究・研修機構労働図書館
 (ウチの図書館お宝紹介 226)、図書館員のおすすめ
 本 72、公益社団法人日本図書館協会2022年度通算
 第2回(定時第2回)理事会議事録、公益社団法人日
 本図書館協会2022年度通算第2回(定時第2回)理事
 会配付資料、図書館雑誌第116巻(2022年度)総索引

010.5

●国立国会図書館

国立国会図書館月報 740 国立国会図書館 2022.12
 34p 30cm 2022年11月号 内容：『処世秘訣集』 90
 年前のライフハックは、今でも通用する？（今月の
 一冊 国立国会図書館の蔵書から）、特別企画 鉄道
 150年 国立国会図書館の鉄道関係資料、国立国会図
 書館資料にみる鉄道関係資料 鉄道を調べる（三木
 理史）、鉄道150年を知る本、鉄道が変えたコト・モ
 ノ（ミニ電子展示「本の万華鏡」 32）、分岐点にて
 （館内スコープ）、読書が変わる？国立国会図書館の
 新たなサービス “個人送信” Q&A、『竹紙の現在と
 文化財修理』（本屋にない本）、中西文庫（吉原努）
 （あの人の蔵書 7）、国立国会図書館月報年間索引
 016.11

レファレンス 863 国立国会図書館調査及び立法考査局
 2022.11 110p 30cm 016.11

●協会報・館報

新潟県図書館協会報 253 新潟県図書館協会 2022.10
 会報 172 大阪公共図書館協会 2022.10 別紙：大阪
 府内公共図書館奉仕状況、大阪府内公共図書館予算
 一覧表 内容：OLA 総会開く 令和4年度事業計画
 等を決定

*

よむみる 362 恵庭市立図書館 2022.11
 情報図書館だより 391, 392 江別市情報図書館 2022.
 10-11

図書館通信 498, 499 登別市立図書館 [2022]
 ハトダヨ 函館市中央図書館だより 78, 79 函館市中
 央図書館 2022.11-12

ことばのうみ 宮城県図書館だより 73 宮城県図書館
 2022.10

花さき山 筑西市立明野図書館報 422 筑西市立明野図
 書館 2022.12

図書館だより 463 新座市立図書館 2022.12
 ひばり いなぎ図書館だより 197 稲城市立図書館
 2022.11

ひろば 日野市立図書館館報 2022年11月号 279 日野
 市立中央図書館 2022.11

マーメイド通信 148 逗子市立図書館 2022.12
 ソフィアだより 317 ソフィアセンター（柏崎市立図書
 館） 2022.11

パピルス 上越市立図書館だより 296 上越市立図書館
 2022.11

読書山梨 山梨県立図書館報 152 山梨県立図書館（か

いぶらり） 2022.10

図書館だより 2022年12月号 213 磐田市立図書館
 2022.11

掛川市立図書館だより 令和4年11月号, 12月号 213,
 214 掛川市立図書館 2022.11-12

あゆち 愛知県図書館報 23 愛知県図書館 2022.10
 内容：特集 図書館と学ぶ愛知県事始め

ひまわりだより 令和4年12月号 404 貝塚市民図書館
 2022.11

ムクムク 441, 442 四條畷市立四條畷図書館 [2022]
 付：新着図書案内 211, 212

としょかんだより 472 寝屋川市立中央図書館 2022.11
 みんなの本だな 図書館だより 649 芦屋市立図書館
 2022.11

しずく通信 223 猪名川町立図書館 2022.11 しずく
 つうしん えほん 57, しずくつうしん for KID'S
 163

用瀬図書館だより 174, 175 鳥取市立用瀬図書館
 2022.10-11

図書館だより 345, 346 岩国市中央図書館 2022.11-
 12

らいぶらりえひめ 238 愛媛県立図書館 2022.10 内
 容：学習支援用協力図書「まなぼん」ができました,
 「個人向けデジタル化資料送信サービス」の開始につ
 いて

コトノハ 11 オーテピア高知図書館 2022.11 内容：
 お知らせ 祝！日本図書館協会建築賞受賞

図書館おおいた 大分県立図書館 学びの四季報 300
 大分県立図書館 2022.09

*

Book Mark 城西大学水田記念図書館報 156 城西大
 学水田記念図書館 [2022]

My CUL 40 中央大学図書館 2022.11 内容：特集
 文庫で読める中国現代文学の名作、図書館のコロナ
 禍対応紹介：自宅でも！キャンパスでも！使える図
 書館サービス、後楽園キャンパス 図書館理工学部
 分館～学習・研究施設リニューアル

ビブリア 158 天理大学出版部 2022.10 天理図書館
 編

図書館報 193 西南学院大学 2022.10

大楠 熊本学園大学図書館報 61 熊本学園大学付属図
 書館 2022.11

●機関誌・団体報

情報の科学と技術 72(12) 情報科学技術協会 2022.12
 46p 30cm 内容：特集 第19回情報プロフェッショ

ナルシンポジウム,「情報の科学と技術」2022 vol. 72総目次 007

Journal of I-LISS Japan 5(1) (通巻9) 国際図書館情報学会日本支部 2022.09 43p 30cm 内容:複雑な情報社会における批判的思考(巻頭言), アメリカ合衆国のスクール・ライブラリアンの現実(2)-学区レベル(大城善盛)(資料),心の居場所づくりをめざした学校図書館の運営;図書委員会の活動を通して(浅川功治)(報告),コロナ禍の日本の公共図書館における利用者サービスの事例研究-大阪市立図書館,神戸市立図書館,京都市立図書館の事例(第4回国際図書館情報学会研究大会日本支部研究発表資料),『図書館・まち育て・デモクラシー:瀬戸内市民図書館で考えたこと』(福田雄大)(書評) 010.7

Media Net 29 慶應義塾大学メディアセンター 2022.10 92p 30cm 内容:特集 学術コミュニケーションを支える:研究・教育活動に参画するメディアセンター,松下記念図書館開館50年企画の実施,慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション 公開からこれまでの歩み 010.7

St.Paul's Librarian 36 立教大学学校・社会教育講座司書課程 2022.03 121p 30cm 国際シンポジウム記録(2021年1月,オンライン) 内容:[公開シンポジウム記録] Introduction: Road to the Future Discussion for Developing the International Children's Literature Course (Mary Ann Harlan), Education about Children's Literature in the Rikkyo University Librarian Course (Keiko Aoyagi, Miyuki Nakayama, Yuriko Nakamura), Teaching Children's Literature to Education Students in a Multicultural, Multilingual Society (Lynne Wiltse), Introducing Issues in an International Children's Literature Course in a LIS school (Mary Ann Harlan, Leah Phillips), Teaching Children's Literature Teaching from a Global Perspective (Cristina Correrro Iglesias), [講演記録] Children's Literature in Latin America and Spain (Joan Portell Rifa), Australian Children's and Young Adult literature (Susan La Marca) 010.7

多摩デボ通信 61 共同保存図書館・多摩 2022.11 8p 26cm 内容:欠号のお詫びとこの間の活動報告,最近の「里親探し」,多摩地域の図書館から回収できたアンケートから見えてきた実態,多摩地域の図書館資料へのISBN 遡及入力(府中市で) 014.68

図書館車の窓 125 林田製作所 2022.11 8p 26cm 内容:新しい図書館車の紹介(ぶっくん ブルー号

山口市立図書館,つばき4号 松山市移動図書館,マビッツ笑顔図書館号 倉敷市立図書館),全国移動図書館実態調査ご協力をお願い(お知らせ!)暮らしの隣に図書館を(奥村恭代 近江八幡市立図書館),移動図書館の仕事(5)ステーション編(手嶋孝典)

015.5

ヤングアダルトサービス研究会通信 278 ヤングアダルトサービス研究会 2022.11 7p 26cm 015.93

としょかん 163 としょかん文庫・友の会 2022.11 19p 26cm 内容:訃報 漆原宏さん,現役会計年度任用職員が,たった1人で待遇改善の声を上げました(としょかん雑記帳),漆原宏さん,写真パネル展開催中,トネリコの木とともに 山口市立中央図書館友の会「トネリコ」の活動,30年ぶりに司書採用を実施させた市民活動を振り返る(図書館とともだち・鎌倉 和田安弘),本土出身者の見た体験の沖縄図書館事情(下)(組原洋),『あの図書館の彼女たち』(本の紹介)公共図書館の源流 大橋図書館 1(源流へ 61) 016.206

図書館の学校 2022年冬号 図書館振興財団 2022.12 48p 26cm 内容:特集 あなたならどうする?図書館のSOS,利用者と職員をまもるための心得,2021年度図書館振興助成事業報告③,資料の汚破損(我ら あおばライブラリアン 7),高知こどもの図書館(図書館探訪記 14),図書館の人々(図書館メジャー化計画 26),日本の図書館史をなぞり,現代の図書館が抱える問題を考える一冊(interview),トゥン・ラザク図書館(世界の図書館 43) 016.206

としょかんふれんず千葉市 70 としょかんふれんず千葉市 2022.11 12p 30cm 内容:「千葉市図書館司書有資格正規職員の配置についての要望書」を提出,漆原宏さんを偲ぶ 016.206

知恵の樹 271 町田の図書館活動をすすめる会 2022.11 8p 26cm 内容:真の市民協働であるための課題を考える 横浜市を事例に(伊藤久雄 NPO 法人まちぼっと理事) 016.206

ライブラリー・タウン L/T 江東区図書館友の会 78 江東区図書館友の会 2022.11 6p 30cm 内容:深川図書館工事中 016.206

神資研ニュース 547 神奈川県資料室研究会 2022.11 10p 30cm 内容:研究を支援する最適な学術文献ワークフローソリューション(第685回例会 講演会) 016.206

図書館とともだち 216 図書館とともだち・鎌倉 2022.11 12p 30cm 添付資料:2022年9月6日 文部科

- 学省事務方面談報告書, 令和4年9月28日「公立図書館の充実を求める要望書」について(回答) 国立国会図書館総務部長, 令和4年11月25日 鎌倉市制100周年記念事業として『新 鎌倉市史』を編纂することについて(要望) 市長宛 内容: 市制100周年にむけて, 今すぐ市史編纂委員会のたちあげを!, 『鎌倉市新庁舎等整備基本計画』, 『鎌倉市市庁舎現在地利活用基本構想』を読んで思ったのは, 図書館の重要性の再認識でした(長尾正), 今改めて考えたい『図書館の自由に関する宣言』を!, 文部科学省, 総務省, 国立国会図書館より回答がときました 016.206
- ささやま図書館友の会会報 49 ささやま図書館友の会 2022.11 [6p] 30cm 内容: 河合雅雄先生を偲ぶ 016.206
- こどもの図書館 69(11) 児童図書館研究会 2022.11 16p 26cm 内容: 特集『冒険者たち』50年, 2022年度全国学習会大阪学習会案内 016.286
- 児図研東京支部ニュース 438 児童図書館研究会東京支部 2022.11 10p 26cm 016.286
- マグちゃん通信 77 射水市大島絵本館 [2022] 6p 30cm 016.286
- 学図研ニュース 441-442 学校図書館問題研究会 2022.11-12 2冊 26cm 内容: (441) 特集 GIGAスクール① 各地の状況, (442) 特集 除籍, 「北朝鮮当局による拉致問題に関する図書等の充実に係る御協力について」(事務連絡) についての見解, 学図研ホームページのサーバー移転に伴う各種変更について, 受信確認のお願いとニュース配信 ML 変更のお知らせ 017.06
- 学図研ニュース・東京 362 学校図書館問題研究会東京支部 2022.12 17p 26cm 内容: 特集 こんな授業支援しました, 東京都公立小・中学校の学校司書(図書館職員) 配置状況 2022年度調査振り返り 017.06
- 図書館教育ニュース(付録) 1610-1613 少年写真新聞社 2022.11-12 4p 26cm 4冊 内容: (1611) オンライン会議ツールの活用(予算0でもできる! 学校図書館の取り組み デジタル化のきほん 7), (1612) 工業高校の図書館としての取り組みあれこれ(実践報告) 017.1
- 小学図書館ニュース(付録) 1278-1281 少年写真新聞社 2022.11-12 4p 26cm 4冊 内容: (1279) 学校図書館として取り組みたい環境整備とサービス(2) やさしい日本語の資料(外国にルーツのある児童への支援 7), (1280) みんなで使って育てる学校図書館(実践報告) 017.2
- 大学の図書館 41(10)-(11) (通巻587-588) 大学図書館研究会 2022.10-11 14p 26cm 内容: (587) 全国大会フラッシュ, 大学図書館問題研究会の歴史を見る: 2001年~2010年, (588) 特集 研究データ管理, 信州大学における研究データ管理への取り組み(岩井雅史), 物質・材料研究機構の研究データ管理について(小野寺千栄), 名古屋大学の研究データ管理支援あれこれ(田中幸恵), 神戸大学附属図書館研究データ管理支援のスタート地点に立つまで(花崎佳代子) 017.706
- ほすびたるらいぶらりあん 47(1) (通巻170) 日本病院ライブラリー協会 2022.11 100p 26cm 通巻170号 内容: 特集 日本病院ライブラリー協会2022年度第1回研修会, 第47回日本病院ライブラリー協会総会報告, 令和3年改正著作権法と図書館サービス-図書館資料公衆送信サービスの動向(小池信彦)(教育講演), 資料の除籍について(瑞慶山沢子)(事例報告), コロナ禍の患者図書サービス(高橋里緒)(事例報告), 病院図書館と大学・公共図書館などとの比較-共通点と相違点から探る可能性(川村秋子)(事例報告), 著作権委員会事業報告(著作権委員会)(事業報告), コロナ禍における患者図書室-「第3回患者医療図書サービス現状調査アンケート」からの報告(患者医療図書サービス支援事業委員会)(事業報告), プロダクトレビュー, 医療の質を支える図書室を目指して 日立総合病院(私の図書室 67) 018.49
- 日本農学図書館協議会誌 208 日本農学図書館協議会 2022.12 34p 30cm 内容: AACR2よりOriginal RDAへ, さらにOfficial RDAへ: 規則・北米の記述準備機関における日本語資料に対する日本その他から入手可能なデータ利用: 概観-第4編(森本英之), 農業データ連携基盤WAGRIの現状と課題(川村隆浩[ほか]), 図書館向け和書電子書籍サービスのこれから KinoDenの事例を題材に(西田和之), コロナ禍の慶應義塾大学における図書館サービスについて(岡田将彦), 英国の大学図書館で起きた来館者増加の要因を探る(海外レポート紹介 2)(長塚隆), 『ジャーナル・インパクトファクターの基礎知識 ライデン声明以降のJIF』(長塚隆)(書評・新刊紹介) 018.61
- 博物館研究 57(12) 655 日本博物館協会 2022.11 60p 30cm 内容: ジェンダーと博物館 069

文藝家協会ニュース 824 日本文藝家協会 2022.11 8p
26cm 906

Report 12 大阪国際児童文学振興財団 2022.10 [4p]
30cm 付：資料寄贈者一覧 909

日本近代文学館 310 日本近代文学館 2022.11 16p
26cm 910

森鷗外記念会通信 220 森鷗外記念会 2022.10 8p 26
cm 910

●出版・著作権

JRAC通信 100 JPIC読書アドバイザークラブ 2022.10
12p 30cm 内容：特集① いつかは訪れたい こ
ども本の森 019

コピライト 740 著作権情報センター 2022.12 68p
30cm 内容：CRIC資料室のご案内 021.2

アクセス地方小出版情報誌 551 地方・小出版流通セン
ター 2022.12 12p 26cm 023

書協 385 日本書籍出版協会 2022.11 6p 26cm 内
容：図書館等公衆送信補償金管理協会 SARLIB 各委
員会を開催 023

JPIC NEWS LETTER 239 出版文化産業振興財団 (J

図書館関係 雑誌記事索引

PIC) 2022.12 [2p] 30cm 023

010.1 図書館と自由

「耳をすませば」にみる貸出方式とリアル図書館の自由
平形ひろみ (こらむ図書館の自由) 図書館雑誌
116(12) p691 2022.12

010.31 図書館一書誌. 文献目録. 索引. 抄録集

図書館雑誌第116巻(2022年度)総索引 日本図書館協会
図書館雑誌 116(12) 巻末 2022.12

010.6 国際図書館連盟

IFLA ダブリン大会報告 教育・研修分科会とポスター
セッションを中心に 角田裕之 (小特集 IFLA ダ
ブリン大会レポート) 図書館雑誌 116(12) p725
2022.12

IFLA 理事会報告 井上靖代 (小特集 IFLA ダブリン
大会レポート) 図書館雑誌 116(12) p724 2022.
12

アジア・オセアニア地域部会活動報告 野村美佐子 (小
特集 IFLA ダブリン大会レポート) 図書館雑誌
116(12) p726 2022.12

「啓発する, 関わる, 可能にする, つなげる」図書館大会
IFLA ダブリン大会 三浦太郎 (小特集 IFLA ダ

ブリン大会レポート) 図書館雑誌 116(12) p721-
723 2022.12

010.6 日本図書館協会

2021年度財務分析報告書 2022年9月 日本図書館協会
図書館雑誌 116(12) p739-743 2022.12

公益社団法人日本図書館協会2022年度通算第2回(定時第
2回)理事会議事録 日本図書館協会 図書館雑誌
116(12) p732-738 2022.12

公益社団法人日本図書館協会2022年度通算第2回(定時第
2回)理事会配付資料 日本図書館協会 図書館雑誌
116(12) p739 2022.12

第108回全国図書館大会群馬大会「本と人が織りなす図書
館の未来」開催 (NEWS) 図書館雑誌 116(12)
p689 2022.12

日図協代議員定数等検討委員会, HP を公開 (NEWS)
図書館雑誌 116(12) p689 2022.12

日本図書館協会研修事業 2022年度中堅職員ステップ
アップ研修(2)終了・修了者について (NEWS) 図
書館雑誌 116(12) p690 2022.12

日本図書館協会, 団体会員(地域図書館団体)のつどい
を開催 (NEWS) 図書館雑誌 116(12) p689
2022.12

013.1 図書館員

図書館司書等の「官製ワーキングブア」の構図 (NEW
S) 図書館雑誌 116(12) p690 2022.12

015 図書館奉仕. 図書館活動

課題解決支援サービスをめぐって(その3) 田村俊作
(窓) 図書館雑誌 116(12) p688 2022.12

015.2 レファレンスワーク

学生とともに, ドタバタ・わくわくレファレンス 川窪
和子, 山本祐実 (れふあれんす三題噺 300 大阪
総合保育大学・大阪城南女子短期大学附属図書館の
巻) 図書館雑誌 116(12) p718-719 2022.12

016.11 国立国会図書館

国立国会図書館デジタルコレクションの動向と学校にお
ける利活用 伊藤響 (特集「情報活用能力」-学校
教育と図書館の未来をつなぐ) 図書館雑誌 116
(12) p708-709 2022.12

016.2136 公共図書館-東京都

渋谷区の図書館を考える会, 区長への要請署名を開始
(NEWS) 図書館雑誌 116(12) p690 2022.12

017 学校図書館

GIGA スクール構想と学校図書館政策 根本彰 (特集
「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ)
図書館雑誌 116(12) p697-699 2022.12

学校はいま、図書館の力を求めている デジタル地域資料がつなぐ学校と図書館の未来 大井将生、宮田諭志、大野健人、高橋傑 (特集「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ) 図書館雑誌 116(12) p710-714 2022.12

情報教育と学校図書館の結びつき GIGA スクール構想を背景として 今井福司 (特集「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ) 図書館雑誌 116(12) p700-702 2022.12

特集にあたって 図書館雑誌編集委員会; 長谷川優子 責 (特集「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ) 図書館雑誌 116(12) p696 2022.12
「未来の学校図書館」 ICT とのベストミックスを目指して 宮崎伊豆美 (特集「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ) 図書館雑誌 116(12) p706-707 2022.12

017 学校図書館-鳥取県

県域で育む「情報活用能力」 鳥取県の学校図書館支援センターの取組 橋中真紀子 (特集「情報活用能力」-学校教育と図書館の未来をつなぐ) 図書館雑誌 116(12) p703-705 2022.12

018.76 専門図書館-音楽

上野の森で60年! クラシック音楽専門図書館 篠原智子 (小規模図書館奮戦記 その298 公益財団法人東京都歴史文化財団東京文化会館音楽資料室) 図書館雑誌 116(12) p727 2022.12

019 読書

大洋中学校区子ども読書活動推進協議会 地域で開く読書の扉 文部科学省 (霞が関だより 229) 図書館雑誌 116(12) p715-717 2022.12

021.2 著作権

図書館等公衆送信補償金管理協会, 設立 (NEWS) 図書館雑誌 116(12) p689 2022.12

028 紹介本

『ウェルビーイング』『文にあたる』『つぎに読むの、どれにしよう? 私の親愛なる海外児童文学』『言語学パブリ・トゥード Round1』 是住久美子, 田子環, 前田佳代, 山内奈津美 (図書館員のおすすめ本 72) 図書館雑誌 116(12) p730-731 2022.12

090 図書館資料

「労働図書館」の特殊コレクション 遠藤和弘 (ウチの図書館お宝紹介 226 独立行政法人労働政策研究・研修機構労働図書館) 図書館雑誌 116(12) p728-729 2022.12

375 学習指導

令和3年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果 (NEWS) 図書館雑誌 116(12) p689-690 2022.12

■本誌2022年12月号の訂正およびお詫び

12月号「日図協図書館新着案内」について下記の通り訂正いたします。

p.745左段 下から17-18行目

(誤)「完全参加と平等」から「合理的配慮」へー聴覚障害者サービスの動向

(正)「完全参加と平等」から「合理的配慮」へー聴覚障害者サービスの動向

関係者各位にご迷惑をおかけしましたこととお詫びし、訂正いたします。

協会通信

常任理事会

日時：11月24日(木) 14:00～16:10

会場：日本図書館協会504会議室、
Web会議（Webでの出席は「W」と記載）

出席常任理事：植松貞夫（理事長）、
鈴木隆（副理事長）、海老根裕（専務理事兼事務局長）、高橋正名（専務理事）、岡部幸祐（常務理事兼総務部長）、成瀬雅人（常務理事）（以下同じ）、西村七夫

列席理事：山崎幹子（国立国会図書館：W）、大谷康晴（図書館情報学教育部会：W）、中山勝文（公共図書館部会）、白濱博人（大学図書館部会：W）、深水浩司（専門図書館部会：W）、高橋恵美子（学校図書館部会：W）、松尾昇治（短期大学・高等専門学校図書館部会：W）

列席幹事：中山司朗（W）

列席者：西野一夫（W）（図書館災害対策委員会委員長）※途中退席

＊

1. 会議成立要件の確認

海老根専務理事兼事務局長（以下「事務局長」という）より、議事に先立って、会場及びZoom上の画面で本人の出席を確認し、出席者が定足数を満たし会議が成立することが確認された。

2. 開会宣言・理事長挨拶

植松理事長（以下「理事長」という）より挨拶の後、開会が宣せられた。

＊

理事長より、議題に関連して、図書館災害対策委員会の西野委員長にオンラインで参加いただいております。協議事項の2. と8. 報告事項(2)について先に取り扱うこととしたいと

の発言があり、西野図書館災害対策委員長より資料に基づき説明があった。

＊

〈協議・報告〉

2. 災害に係る協力体制に関する協定書（案）について

西野：列席にご許可いただき感謝する。「災害に係る協力体制に関する協定書」（案）を提案する背景についてまず説明する。大規模な災害支援の際には、支援団体が錯綜し、バッティング、非効率的な活動になっていた。図書館関係については協会が音頭をとり、連絡をとりあい、協力する等対応してきた。10年前後にわたる経験をもとに、協力について予めどういう協力ができるか文書化しておき、事故等が起こった際の責任の明確化、費用の分担について、総合的な文書が必要ではないかと思い、提案することにした。相手としては東日本大震災等の際に協力した実績のある団体を対象とした。資料に基づき、協定書内容を説明する。第1条は、これまで毎年200～300万円の助成を行っているが、それとは別に、申請を募集する時間がなく重大かつ緊急な支援が必要なものについて、重複・乱立を防ぐために協力をとれるところとあらかじめ枠組みを決めておくということである。第2条は用語の定義なので説明は省略する。第3条は、災害時の被災状況等の連絡体制及び情報共有について、第4条では、支援要請の方法について、第5条が核心となる協力の内容で、大きく三つを挙げ、以降、広報、調査研究、費用等についてまとめている。ケースバイケースのこともあるので表現は柔軟にして

いるところもある。事例等はQ & Aを参考にしていただきたい。

理事長：第4条、第6条に様式等があることが記載されているが、本日の資料では用意がないがしかるべく用意するということでご理解いただきたい。

出された意見を基に若干の修正を行った上で、理事会に諮ることとなった。

〈主な意見など〉

高橋（恵）：協定書そのものに意見はない。細かいところだが、資料p.5に「図書館関連企業・団体」とあり、Q&Aには、「団体と企業」となっている。表記を統一したほうがいい。2点目、図書館災害対策委員会が忙しく活動していたころはちょっと前のことのように思うが、いまのタイミングでこの協定書を作ろうということにしたのかを聞きたい。

理事長：1点目については表記を統一したい。2点目については西野委員長より説明をお願いする。

西野：東日本大震災対策委員会を解散し、その活動は図書館災害対策委員会で行き継ぐということになった。将来を見据えて理論化、文書化することに取り組む必要があると考えた。支援活動について文書化、理論化すること、資金面については東日本大震災対応のときは潤沢な費用があったが、基本的に資金の調達が難しくなっていることから団体に協力いただけることはお願いしようとは活動をご理解いただき協力体制をつくりたいと考えた。全体的な見直しと理論化をはかる一環とみていただきたい。

松尾：協定案の第2条定義のところ(1)で「短期大学及び高等専門学校図

書館」となっているが、「短期大学図書館及び」、としていただいたほうがいい。

大谷：趣旨は賛同する。同じく定義の第2条(2)で、「その他の異常な自然現象により生ずる被害」ということだが、何をもって異常とするのか。基本的には実際にはその当事者間で協議していろいろ決めていくものなので、「異常」はなくてもいいと思うがいかがか。

西野：そのご意見でも構わないと思うが、委員会における支援活動を定義している部分があり、そこに合わせている。もしこれが今日のご意見で「異常」はいらないということになれば、そちらも併せて直すということになる。

大谷：例えば台風、集中豪雨等で激震の指定を受けなくても被害を受けるところは甚大な被害を受ける可能性はありうるので、「異常」という言葉があると排除する方向にあるようにとれるので、委員会の規定等もあわせてご検討いただければと思う。

理事長：ここについては12月の理事会に諮り、承認することになる。それまでに検討いただきたい。どのくらいのタイムスケジュールで協定を進めるように考えているか。

西野：これまで協力いただいた団体・企業に打診することから早速にとりかかりたい。反応があったところから具体的に話し合いをすることになる。団体、企業と同時並行的に進めることは難しい。進められるところから進めたい。

理事長：他に質問、意見がないようなので、これを理事会に諮るということでお願いする。理事会においても西野委員長に参加していただき、説明をお願いする。続いて、報告事項(2)についても西野委員長から報告いただく。

8. 報告事項

(2) 2022年度災害等により被災した図書館等への助成の申請に係る審議結果について

西野委員長より、資料に基づき説明があった。

今年度については地震、台風はあったが図書館に関しては以前経験したような未曾有の経験をするとはなかった。東北に限っていえば、2021年2月及び3月の宮城福島地震の後遺症が多く残っている。特に学校図書館、最近では私学からも、この活動が知られるようになり積極的に応募が来ている。東日本大震災で避難を余儀なくされた福島県の復興が緒に就き始めたということでこれから更なる支援が必要と思われるが、今年度についてそれらの申請はなかった。申請の件数は公共図書館4件、大学図書館2件、学校図書館7件、合計13件、504万円で、予算を大幅に上回る申請があった。審査の結果11機関、203万円を助成することになった。

〈主な意見など〉

深水：助成しない理由は具体的にどこかに記載があるか。

西野：資料を見ていただきたい。被害に直結した申請が判断ができない、昨年助成したが今回も別の申請が来ていて、自己努力があってもいいのではないかという理由となる。

深水：評価はわかるが、評価に助成しない理由をつけたほうがいいのではないか。

理事長：異議申し立ての機会は設けるのか。

西野：設けてはいないが、申し立てがあれば、説明をするがいまのところない。

高橋(恵)：この資料の表はあまりに字が細かくて読みにくい。会議の資料もページが多くて、資料の作り方をどうにかならないか。

理事長：検討する。こちらについて

も理事会に報告したい。

(西野委員長退席)

*

〈協議・報告〉

1. 公益社団法人日本図書館協会就業規則の一部改正について

事務局長より資料に基づき説明があった。

改正理由は、嘱託職員から正職員への転換に伴う職員の処遇改善を図るための、就業規則の一部改正となる。厚生労働省の助成制度「キャリアアップ助成制度」を利用して、助成金を申請するにあたり、2022年10月1日以降、正職員転換の支給要件が変更となった。現行規則第8条では、新たに採用された者は、採用の日から6か月を試用期間とするとしている。解釈により嘱託職員からの転換者も「正職員として新たに採用」された者として見なされる可能性があることから「新たに採用された者」の中に嘱託職員からの転換者については含まない旨を記載することとした就業規則の改正を行うものである。理事会に諮ってさかのぼって10月から適用することとしたい。

理事長：理事会に議題として提出することとする。

3. 2022年度通算第2回(定時第2回)代議員総会の開催について

事務局長より資料に基づき説明があった。

会場借用の都合で、開催日は3月20日(月)13時から17時とし、会場はKKRホテル東京、対面式での実施を提案する。議題は資料のとおりを予定している。欠席代議員に対しては希望によりZoomによる映像を配信する。出席できない代議員の議決権行使方法は書面決議及び委任状によるものとする。この後、新型コロナウイルス感染症の状況がどうなるかわからないが、現時点では対面での方法を考えている。

理事長：補足する。日にちは当初3月16日(木)を予定していたが会場確保の関係で3月20日を候補としたい。議題については案であるが、議長の選出、公益社団法人日本図書館協会における2023-2024年度理事・監事選任に係る基本方針及び選任方法等について、公益社団法人日本図書館協会における2023-2024年度理事・監事選任日程(案)について、報告として2023年度公益社団法人日本図書館協会事業計画・予算について、を予定している。この内容で理事会にお諮りすることとする。

4. IFLA 分科会常任委員(2023-2027)の推薦について

岡部常務理事兼総務部長(以下「総務部長」という)より、資料を基に説明があった。

IFLA 分科会の常任委員(2023年8月~2027年8月)の改選について、国際交流委員会委員長より4名の委員を推薦することについて提案があった。6分科会の常任委員を推薦できるが2分科会で推薦できる該当者がいない。3月から4月にかけて選挙が行われ、結果は5月に判明する。理事長：該当者なしの分科会については、これは国際交流事業委員会としては推薦できる適当な方を見つけれなかったということなので、推薦者があれば事務局にお寄せいただきたい。分科会常任委員は選挙によって決まるが、ここで候補者として挙げても当選するとは限らない。また本協会の財政状況から現地への参加については自己負担をお願いしている。

5. 後援名義等の応諾について

以下の後援名義等について承認した。

【後援】

・「2022年展示論講座」(日本展示学会)

・「図書館総合展カンファレンス in

鳥取」及び「都道府県立図書館サミット2022」

(鳥取県立図書館、都道府県立図書館サミット実行委員会、図書館総合展運営委員会)

・「第70回大阪公共図書館大会」(大阪公共図書館協会)

・「令和4年度東京都多摩地域公立図書館大会」(東京都市町村立図書館長協議会)

・「第18回全国紙芝居まつり川越市大会」(第18回全国紙芝居まつり川越市大会実行委員会)

・「絵本を届ける運動」(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会)

・「アジアの図書館サポーター」(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会)

〈主な意見など〉

高橋(恵)：資料のつけ方を簡略にしてももらえないか。昨年も許可している件について定款をつける必要があるのか。昨年許可した件については申請書のみとする等、工夫してほしい。

総務部長：あまり簡略化してしまうと、審議の形骸化につながる懸念はあるが、簡潔にするよう工夫したい。大谷：ある程度資料が増えるのは致し方ないということもある。メインの資料と別紙の参照資料の置き方を工夫していただく等検討していただきたい。

理事長：工夫について検討する。

6. 寄附金について

以下の寄付金について承認した。
・2022年10月25日~11月10日入金分
一般寄附金12件：1,031,268円

理事長：感謝状をお渡しする対象の方がいらっしゃるがご辞退されている。

7. 新入会員の承認について

以下の新入会員について承認した。

・2022年11月16日現在

個人会員A：8名

準会員：1名

8. 報告事項

(1) 2023年度児童図書館員養成専門講座の実施について

事務局より2023年度の児童図書館員養成専門講座の実施について、資料に基づいて報告があった。この件については各自治体において来年度の予算計上をお願いするという観点から、事前に報告し承認いただくということである。内容については昨年と同様となっている。

(3) 大学図書館の職員に対する意識調査の実施について

理事長より、資料に基づき説明があった。図書館調査事業委員会課題調査委員会が2022年12月1日から2023年1月15日に実施するもので、図書館員の専門性をどのように認識しているかの意識調査をGoogleフォームにより行う。公表は課題調査委員会のホームページにPDFファイルを、また『図書館雑誌』へ記事を掲載予定としている。

〈主な意見など〉

大谷：昨年8月私大連の提言が出されたなかで、大学設置基準の必須施設から大学図書館を外すとか大学図書館職員は形骸化している等見過ごせない表現が出た。日本図書館情報学会会長からも意見を出したが、このような意見が出てくる背景として、大学図書館職員がどう受け止めているのか、図書館界の課題としてとらえたいと事業計画を提案し、実施するもの。今後必要な業務、知識への意識調査となっている。

(4) 「図書館等公衆送信補償金制度」の額の認可に係る意見聴取について
総務部長より、資料に基づき説明があった。

一般社団法人図書館等公衆送信補償金管理協会が設立され、文化庁から図書館等公衆送信サービスの指定管理団体としての指定を受けた。こ

の指定管理団体から著作権法に則り、補償金の額の認可に係る、図書館関係団体及び図書館設置者団体への意見聴取が行われている。意見提出の締め切りは12月12日までとなっている。補償金の規程については関係者協議会での意見交換に基づくものとなっているが、一部、定義等において、図書館の現場での認識と相違があるもの、また意味を取りづらい記述がある。協会としての意見は著作権委員会で検討中である。

〈主な意見など〉

理事長：著作権委員会が意見書を作成した後、意見のまとめについてはどう扱われるのか。

総務部長：メール等でご確認いただくことになる。

理事長：金額についてはすでに意見するものではないが、それ以外のところで意見をとりまとめていくことになる。

大谷：図書館のもつ公共性や、図書館の存在を考慮せずに一方的に言われているのは、どうかと思う。

理事長：多くの著作者は世の中に広まることを望んで書いていると思う。

総務部長：改正法自体が、権利者の逸失利益を補償することを規定している。そのための考え方としては、例えば新聞等の現在のサービスにおける価格を下回らないということを前提に算定されている。

大谷：何も言わないで、これでいいのか。複写や資料の貸出についても影響があるのではと危惧する。

深水：大谷理事に大賛成。図書館との歩み寄りをもうちょっとしないと問題解決に至らないのでは。実効性がある算定額かどうか。この制度を実行するならばもう少し算定基準を検討したほうがよいと思う。

総務部長：料金については、3年経過ごとに検討を加えるということになっている。今回意見を出したとし

てもそれを考慮してこの金額が変わることは期待できないが、実際にやってみてその実施状況を踏まえて、もう少し実態に即した協議ができるかと思う。本来は、フェアユースが議論されとか、補償金の対象にならないものを増やしていくことを図書館としては継続して検討をすすめていく必要があるとも考えられる。

鈴木副理事長（以下「副理事長」という）：公共図書館部会の部会長副部会長会議でちょっと話題がでたが、それぞれの図書館で補償金額の算定が変わってしまうのではないかと。新聞と雑誌その他の定期刊行物について、電子版、縮刷版、データベースとそれぞれどう考えるのか。同じ記事内容でも縮刷版とデータベース版とは違う、媒体によって違ってくるが出てくる。いまずぐに解決は難しいと思うが検討が必要ではないか。

総務部長：図書の総ページ数の考え方は、関係者協議会でも意見が出ている。補償金規程では、図書館が計算しやすいページで算定していいという考え方で、料金のばらつきはある。そういうところは今回意見することも考えられる。データベース、電子版については契約内容によるので、補償金の対象とはなっていない。実務レベルが詰まっていない、ガイドラインも定まっていないなかで、補償金を決めなければならないのは双方に無理があるが、可能な限りいろいろな意見を出していければと思う。

理事長：著作権委員会の結論を待って、改めてお知らせする。

(5)『日本の参考図書 Web 版』の公開について

副理事長より資料を基に、これまでの経緯等について説明があった。2005年から2006年にかけて『日本の

参考図書 第4版』のデータベース化とシステム作成を、慶應義塾大学田村研究室が同大学学事振興資金による研究補助を受けて作成した。2007年8月にデータベースは日本図書館協会に移管され、運用は協会に設置された『日本の参考図書 Web 版』検討会が担当し、インターネット上に『日本の参考図書 Web 版』（以下「Web 版」とする）としてテスト公開した。2007年には新たに『日本の参考図書 四季版』（日本図書館協会編刊）の第137号（2001.02）以降のデータを追加した上で、東京都図書館協会の研究助成により Web 版の検証とモニター調査を行い、有効性を確認した（『東京都図書館協会報』No.88 2008.6）。協会事務局のIT化の検討に含めて本運用への移行を目指したが、移行できなかった。その後は『日本の参考図書 四季版』のデータの追加していたが、182号（2012.03）で中断した。

2012年度以降の運営経費はWeb版検討会旧メンバーが負担してきた。2020年度以降、今後の対応を検討し、株式会社皓星社に打診したところ、無料公開してもよい、との回答があり、移管についての覚書を株式会社皓星社と日本図書館協会で行き交わした。主な内容は、『日本の参考図書 Web 版』維持管理業務を日本図書館協会から株式会社皓星社へ移管することを目的とし、移管対象業務やスケジュール・費用については株式会社皓星社が負担するなどを定め、当面の間無料で公開することを約束している。今回のWeb版再公開は、株式会社皓星社管理下で行うこととなった。これについては『図書館雑誌』、HP、メルマガで広報していきたい。これまで維持管理をされた『日本の参考図書 Web 版』検討会旧メンバーの皆様には厚くお礼申し上げます。

9. その他

(1) 第24回図書館総合展について

副理事長より、日本図書館協会が図書館総合展のサテライト会場として初参加したことについて報告があった。

上映と講演では「図書館を知る・学ぶ 図書館と知る自由」をテーマに、2018年にNHK 長野放送局で放送された『図書館と戦争～図書館長 乙部泉三郎の半生～』という番組を見て、その番組制作ディレクターと伊那市創造館学芸員の濱慎一さんをお呼びして経緯とそのとき発見した古い文書等をご持参いただきお話を伺う。乙部という人は、思想善導をまじめに取り組んだ館長で、戦前の軍国主義の流れの中で図書を一定程度制限していったことについてのドキュメンタリーであり、その番組制作側と学芸員の方を呼んで講演をする。併せて『格子なき図書館』も上映する。日程は、11月28日14時30分～16時30分。翌29日は『格子なき図書館』の上映のみ行う。図書館の見学会は、日本図書館協会図書館が発足していろいろ活動している様子を、皆さんに見学してもらおうということで11月14日～29日まで実施する。協会の出版物も展示販売をしている。なかなか協会に来て見て買うということができにくくなっていたので、今回はこういう機会を企画し

た。

(2) 団体会員のつどいについて

副理事長より、11月2日14時から開催した「団体会員のつどい」について報告があった。

8団体が出席し、それぞれの団体からの活動報告、協会から財務状況の報告があり、代議員補欠選挙の対象選挙区にもなっているので、関係する定款・規程についての説明をした。相互の情報共有で団体の状況の違い等、各団体同士での意見交換が行われた。

(3) 次期教育振興基本計画への意見について

高橋（恵）理事より次期「教育振興基本計画」への意見提出について発言があり、理事長より11月29日ま

でに意見申し立ての希望があることを回答し、提出する意見については1月半ばまでに検討することになると説明があった。

学校図書館に関連することも多いので、学校図書館部会としてのご意見をいただきたい。図書館政策企画委員会等にもご意見を求めることとする。

*

・今後の予定

・2022年度通算第3回（定時第3回）理事会（Web会議）

日時：2022年12月22日（木）13時30分から

・2022年度第7回常任理事会（Web会議）

日時：2023年1月26日（木）14時から

事務局カレンダー

＊○印の日が事務局のお休みです。

■2023年2月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	1	2	3	④
⑤	6	7	8	9	10	⑪
⑫	13	14	15	16	17	⑮
⑰	20	21	22	⑳	24	㉕
㉖	27	28	*	*	*	*

■2023年3月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	1	2	3	④
⑤	6	7	8	9	10	⑪
⑫	13	14	15	16	17	⑮
⑰	20	㉑	22	23	24	㉕
㉖	27	28	*	*	*	*

※事務局業務について、今後の状況によっては縮小・休止する場合があります。最新の情報については、ホームページ等で随時お知らせいたします。

編集手帳

私が編集委員に加わったばかりの頃、『図書館雑誌』の巻頭には図書館の情景を撮影した写真が必ず掲載されていました。『図書館雑誌』を開くと、まずは、図書館そのものというより、そこに居る人々の表情に自然に目が向き、胸にしっかりと大切そうに本を抱える笑顔に輝く瞳、4、5人で一冊の本を囲みのぞき込む子どもたち、安心してくつろぐ人生の先輩たちの姿、そして利用者に向き合う司書のやさしくも真剣な目。

後に単行本となった写真集のタイトル『ほくは、図書館がすき』のと

おり、漆原宏氏の写真が伝える、市民ひとりひとりそれぞれの形で愛され、求める資料と出会える場―「図書館」を職場として働ける喜びを毎月再確認するかのよう、それから本文を読み始めるのが毎月の習慣となっていました。

写真の掲載がなくなったのはいつの頃からだったか。情報環境の変化に応じた拡充する図書館機能を、知見の成果を高いデザイン性によって具現化した図書館の在り様を『図書館雑誌』は伝え続けていますが、思ひなしかもう一つの大切な「人」、利用者の姿が見えにくくなったような気がするのは私だけでしょうか。さらに今、感染予防のシートに隔てられて、市民や学生や生徒ひとりひとりの表情は遠くなっているまいか。

今号で、漆原氏のご逝去を悼んでお寄せいただいた文章の中で松島氏

は「漆原さんの写真は、見る人に寄り添い、その人の言葉で図書館の本質を教えてくれる」と語られています。地域の移動図書館と家庭文庫に図書館の原点を見、日本中の図書館の成熟した未来を願っておられた漆原氏。

この2月号は、図書館の少し先の未来を願わすかのような、市町村立図書館・県立図書館・大学図書館・学校図書館をカギに展開された多様で独自の挑戦を紹介しています。先行例が現場の実践に連なり、蓄積することが日本中の図書館の未来につながる。もし今現在の図書館に、漆原氏のカメラがあったなら、氏が私たちに伝えるそれぞれに学びを楽しむ利用者の表情はいかなるものだろうかと思わずにいられません。

(長谷川優子)

図書館雑誌／3月号予告 (Vol.117 No.3) 定価1026円 3月20日発行予定

特集：図書館の家具・什器（仮題） 内容＝図書館家具・備品の重要性和整備ポイント（柳瀬寛夫）、図書館家具4つの事例（酒匂克之）、豊かな空間を作る家具設計－明治大学和泉図書館（折戸晶子）、菊池市立図書館の空間デザインの取組（安永秀樹）、神奈川県立図書館の空間づくり－新・本館における家具、書架の事例（森谷芳浩）、大阪市立中央図書館地下1階 Hon+α！（ほな！）スペース（西尾真由子）、「百脚繚乱」の閲覧席－石川県立図書館の家具について（嘉門佳頭・川上元美）。以上特集のほか、〈声一各地の代議員から（仮題）①〉前進のためのよりどころ（須藤紀子）、3つの機会の提供で魅力ある日図協に（天野奈緒也）、〈ウチの図書館お宝紹介！②岩手県立図書館〉原敬文庫－開館100周年に自筆と思われるメモが発見される（岩持河奈子）、〈小規模図書館奮戦記③群馬県・上野村図書館〉等の連載記事を掲載してお届けします。